

鮭鱒業報

第五十號

北海道鮭鱒養殖水產組合解散記念號

北海道鮭鱒漁業協同組合

摺換 論 叢 彙 報 味趣 錄附

目次

鮭鱒養殖水產組合から協同組合へ……………	(一)
北海道における養鯉成績……………	渡邊宗重(四)
養魚池の浮游性藍藻類が水質及び魚類に及ぼす影響に就て……………	江口弘(一四)
揚子江流域の淡水魚に就て(下)……………	並木延郎(一七)
北海道湖沼案内(上)……………	元田茂(一九)
北海道鮭鱒養殖水產組合の解散……………	(一七)
北海道鮭鱒漁業協同組合の設立……………	(一六)
昭和二十二、二十三年度鮭鱒親魚捕獲採卵成績表(一)(二)(三)(四)……………	(三)
北海道水產孵化場千歳支場創立六十周年記念祝典の概況……………	(三七)
十勝事業所管内採卵成績優秀者表彰式舉行……………	(四一)
鮭鱒研究懇談會の開催……………	(四二)
北海道水產孵化場十勝支場釧路事業場孵化室増築落成式の舉行……………	(四四)
本道開發功勞者表彰……………	(四四)
遺稿孵化事業のところとく……………	故秋味三平(四五)
内海重左工門君追憶集……………	(五一)
編輯後記……………	(五九)

鮭鱒養殖水産組合から鮭鱒漁業協同組合へ

組合長 半田芳男

新時代に期應するために北海道鮭鱒養殖水産組合は本日(本日)を以て解散を決することになりました。

本組合は去る昭和二十一年八月二十一日に誕生し今日に至る丁度滿三年を経過したのであつて極めて短期間の存在であるが實際には本組合とその存立の意義を同じくする即ち孵化事業への協力團體は遠く大正十三年に發足してありまして爾來これが次第に發展し事業が複雑化したので従來の申合團體では種々不便を感ずるので法人格を有する水産組合に組織變へをしたのであります。従て名稱、組織内容等は變遷したが目的とする事業は終始一貫して孵化事業の擴充強化に協力して鮭鱒資源を確保して漁業の安定を圖るに在たのであるから此意味に於て實に二十有五年の古い歴史を有するものであると云へるのであります。

然し歴史の古いことは必ずしも貴いのではなくその間に於ける業績の如何に在るのであります。然らば本組合の業績を檢討して見るならば果して如何であるか。

水産組合に變る以前の團體は主として技術の改善發達と孵化事業の社會化に重點をおいたもので云はゞ精神的の協力機關でありましたが昭和九年に道内に分立經營されてあつた多數の民營孵化場を官營に一元統制された機會に孵化事業への協力を強化するために經濟的事業を併せ行ふ必要が起つたのでこゝで物質的協力部門が加はつたのであります。之が昭和十三年に設立された北海道鮭鱒保護組合であつて之が更に同十六年に北海道鮭鱒保護協力組合に變つたのであります。本格的にその使命を果し得る條件を具備したのは本水産組合として發足してからのことであります。

水産組合三年間に於ける協力事業の成績を要約して申上げて見ると第一に水産孵化場で實施し得ない親魚捕獲場の經營であつて三年間に鮭卵二八、八五二、四六〇粒、鱒卵四、二二六、五五〇粒を採卵してあります。これが全道採卵數に對しての割合は鮭五・四％、鱒一五・三％に當る次第であります。全道採卵數に比較して少い數であるが元來親魚數の極めて少い捕獲場を引受けて多大の犠牲を拂て採卵したことを思へば案外高價なる採卵數と謂ふべきであります。

第二には水産組合自力でもつて新しい孵化場を設けて孵化放流を行ふ施設の実施であつて二十三年度から始めまして十勝川水系御影に於て二、四六四、三八〇粒、又釧路白糠に於て八八五、〇〇〇粒を收容して孵化しました。之も数字としては大したものではないが地方の人に孵化の實際を見せて事業への關心を喚起した大きな收穫でありました。

第三に述べ度いことは過去三年間に於ける水産孵化場への協力の綜合業績とも云ふべきもので之を金額に見積て二二、二八九、二〇五圓一になりつゝ（内三、五六四、五二四圓二三）は經費の一時立替）之に依て孵化設備の改善、事業運営をして圓滑ならしむるのに相當の役割を果たしたと考へます。

此外孵化事業の普及宣傳や調査研究等に微力をつくしたものが數々ありますが茲では省略しておきます。然し以上の協力は他に誇るべきものではない鮭鱒漁業者として當然爲すべきことであるとの批判もさるゝかも知れませぬが兎に角本組合設立の使命を辱かしめなかつたことだけは自負してもよいと思ひます。

戦後世相の急變に禍せられ本組合の事業も所謂新興産業と同一視された嫌もありましたが之に對しては敢て辯解をせず時が自ら正當なる判定を下すであらうと堅く信じて今日に至りました。只今過ぎし三年間を顧みその間毫末の不正を犯さなかつた事を斷言することが出来て滯なく圓滿に茲に解散する時機に達したことは組合員各位と共に喜びに堪へないのであると同時に勞苦を共にした組合關係者並に指導的立場に在て陰に陽に御支援を賜た關係官廳の各位に此際深甚なる謝意を表する次第であります。

戦後北洋に於ける鮭鱒漁業區域の喪失は我國水産の悲劇であるが之に立向ふ方策は北海道の資源の増殖確保の一途あるのみであります。然るに現實の問題として孵化事業を眺めて見るときに關係者の熱心なる努力あるにも不拘効率の底下顯著なるものがあることは遺憾に堪へない次第であります。この理由は茲に數へ上げる迄もなく賢明なる各位は御承知の事であるから省略致しますが之が對策に就ては各位と共によく検討して成果を期待することにとむることが緊急の要事と思ひます。

先づ鮭鱒孵化事業は誰が擔當すべきかとの間に對しては直接の受益者たる漁業者が自己の責任に於て行ふべきであると答が出るのであります。唯茲に考ふべきは孵化事業は多分に公益性を有しておること、主たる事業施行地は漁業者の居住地とは遙かに離れた奥地で行はるゝこと、技術的に幾多の研究を要する問題がある等の條件があるので直ちに漁業者が之に當ることは困難が伴ふのであります。

昭和九年から十二年にかけて五十有余の民營孵化場を官營に移管したのは當時亂立して互に事業上の連絡を欠き經營困難のために効果を減殺することの欠點を是正するために行つたもので幸ひにして機構としては爾來整備されて今日に及んでおりますが前に述べた通りその運営にいろ／＼の困難があつて所期の効果が擧げられないのが現状であります。

そこで以上述べた障害を除去緩和する方途が講ぜられて始めて孵化事業が正道を踏んで進むことが出来る所謂軌道に乗せることが出来るのであります。この役目を果たすために全道の鮭鱒漁業者の強力なる團結が必要であつてこれが已に述べた漁業者の事業擔當の困難を克服する資格を具有することゝなるのであります。

この團體は即ち北海道鮭鱒漁業協同組合であつて之は已に創立されてあつて事實上孵化事業協力の實施を致しておるのでありますがこの協同組合は水産組合の單なる看板の塗り變であつてはならないので鮭鱒漁業者の社會的經濟的地位の向上を圖ると共に最も重要な資源の確保にとむべきであります。即ち漁業協同組合は鮭鱒漁業者として行ふべき各種協同事業の中特に鮭鱒の蕃殖保護の施設に重點をおくと云ふことが特色であります。

斯様な資格を整備した上で自らの資源を確保する孵化事業を擔當することに自信を持つことが出来るのでこの機會が一日も早く實現することにとめなければならぬと思ひます。斯くして二十有五年の長い歲月に亘る孵化事業協力團體、特に最終段階に在た水産組合の解散をして有終の美を收めしむることが出来るわけでありませぬ。

(註) 本稿は昭和二十四年九月三十日開催の北海道鮭鱒養殖水産組解散總會に於ける半田組合長の挨拶要旨である。編者

叢論

北海道に於ける養鯉成績

函館水産専門學校

渡邊宗重

一、緒言

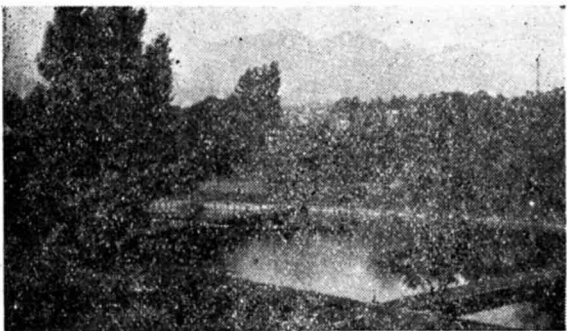
現在の函館水産専門學校が北海道帝國大學附屬水産専門部として札幌に在りし當時には大學構内に養魚實習池があり、年々生徒の實習の爲に養鯉試験を施行して居つた、而して之は養鯉方面の試験研究の欠けて居る北海道に於ける養鯉に關する試験記録として多少なり参考になる事と思はれるので以下其の概要を取まゝとめて御參考に供し度いと思ふ。

尙此の試験は當時水産専門部教授として在職せられた、故藤田經信博士も其の指導に當られたものであることを附記して置く。

二、飼育池並に飼育試験結果

本試験の施行された養魚池は、札幌市北七條西九丁目、函館本線鐵道線路の北側に接した大學構内に在り、次の三池を使用した。

- 第一號池 (面積 一四三坪)
- 第二號池 (〃 一五四坪)



(元北海道帝國大學附屬水産専門部養魚實習池)

第三號池 (面積 三九二坪)
右の三池は東西に相接して並び各池共其の周壁には土留柵をめぐらし水深は一尺乃至一尺二三寸であつた、三池中第一及び第二號池には毎年明三年魚、第三號池には明二年魚を放養飼育した。

次に各池の大正十四年より昭和七年に至る八ヶ年間の試験結果を表示する。

(第一表乃至第三表)

第一表 第一號池 (面積143坪) 明三才魚

項目	試驗年次		餌料の種類 (増肉係數)	餌料の割合	餌料の種類	總投餌量	投餌期間	取揚		取揚の歩數	尾歩減重量	取揚の平均肉量	取揚の總生産量	
	大正十四年	同十五年						取揚尾數	取揚平均肉量					
放養	4尾	3尾	干大豆 (四〇) (豆)	2:1	大豆 (四〇) (豆)	三貫〇〇〇	6.1~9.30	496尾	352尾	13.0%	41貫560	25貫510	178匁4	
	572尾	430尾						18.0%	41貫560	25貫510	178匁4			
放養	16貫050	14貫190	魚粉 (三〇) (魚)	2:1	魚粉 (三〇) (魚)	三貫〇〇〇	6.6~9.22	83匁8	72匁8	83匁8	83匁8	11匁480	79匁9	
	28匁1	33匁0						83匁8	72匁8	83匁8	11匁480	79匁9		
取揚時一尾平均ノ豫定體重	85匁	100匁	いぎ (三〇) (豆)	3:1	大豆 (三〇) (豆)	三貫〇〇〇	6.1~9.30	554尾	384尾	3.1%	50貫770	92匁0	34貫570	242匁4
	20%	15匁						3.1%	50貫770	92匁0	34貫570	242匁4		
豫定總重量	38貫930	36匁500	いぎ (三〇) (豆)	3:1	大豆 (三〇) (豆)	三貫〇〇〇	6.1~9.21	100尾	5尾	40%	40貫700	33匁9	188匁0	
	38貫930	36匁500						40%	40貫700	33匁9	188匁0			
取揚時一尾平均ノ豫定體重	100匁	100匁	大豆 (三〇) (豆)	3:1	大豆 (三〇) (豆)	三貫〇〇〇	6.1~9.30	100尾	5尾	5%	54匁300	32匁9	147匁3	
	100匁	5尾						5%	54匁300	32匁9	147匁3			
取揚時一尾平均ノ豫定體重	100匁	120匁	干大豆 (四〇) (豆)	3:1	大豆 (四〇) (豆)	三貫〇〇〇	6.1~9.30	572尾	715尾	5%	29匁200	40匁8	39匁100	
	572尾	715尾						5%	29匁200	40匁8	39匁100			
取揚時一尾平均ノ豫定體重	100匁	120匁	干大豆 (四〇) (豆)	3:1	大豆 (四〇) (豆)	三貫〇〇〇	6.1~9.30	100尾	5尾	5%	97匁800	45匁6	57匁5	
	100匁	5尾						5%	97匁800	45匁6	57匁5			
取揚時一尾平均ノ豫定體重	100匁	120匁	干大豆 (四〇) (豆)	3:1	大豆 (四〇) (豆)	三貫〇〇〇	6.1~9.30	100尾	5尾	5%	81匁480	38匁5	35匁1	
	100匁	5尾						5%	81匁480	38匁5	35匁1			

三、飼育試験成績の考察

1. 尾数の歩減

飼育中の尾数の歩減は云ふまでもなく魚の年齢によつて異なるもので二年魚、三年魚に分けて考察して見る。

二年魚 二年魚の試験池であつた第三號池に於ける大正十四年より昭和七年に至る八回の試験の結果では尾数の歩減の最少が昭和四年の三・〇%、最多が昭和六年の四三・〇%であつて、八ヶ年の平均が一・二・二%に相當し、二年魚の歩減としては甚だ高い價となつて居る、但し此の八ヶ年の試験中、歩減の三四・〇% (大正十四年) 及び四三・〇% (昭和六年) の如きは、むしろ特別な場合と思はるゝもので此の中昭和六年の四三・〇%は此の年八月中旬に、北海道には珍らしき鯉の鼻揚げがあり多數の斃死を來した結果であり、大正十四年の原因に付ては不明であるが、今此の兩者を除き他の六回の平均を以てすれば一六・八%となる譯である、然し此の價も普通二年魚の歩減としては少々多過ぎる様に思はれる。

三年魚 三年魚は第一號及び第二號池に於て夫々大正十四年より昭和七年に亘る合計十五回の試験があり(第二號池に於ては昭和三年に一回だけ二年魚の試験を行ふた)其の歩減の結果より各池の最少最多及び全平均を摘録すれば次の様である。

	最少	最多	全平均
第一號池	三・一%	一八・〇%	九・六%
第二號池	三・一%	一七・〇%	一〇・三%

之によれば兩池に於ける結果が全平均に於て凡そ一〇%に相當して居る。之を前記二年魚のそれに比較すれば約七・〇%の減少で之は三年魚として當然の事であるが、三年魚の歩減としては少々多過ぎる成績の様に考へられる。

2. 成長度

鯉の成長度は放養率、餌料の種類、投餌量、同期間、氣候等多くの條件によつて相違を來すことは云ふまでもなく此等の諸條件と對照考察すべきであるが此所には只前表記載の様な條件を以て北海道に於ける鯉の成長度は凡そ幾何程度に達するものと云ふことを示し度いと思ふ。

先づ第三號池の二年魚に於ては春の放養時三・二匁(昭和三年)乃至七・二匁(昭和五年)(八回の平均に於て五・二匁)即ち大体五匁内外の仔鯉を使用して、凡そ六月一日より九月末日まで飼育し、秋の收穫時には三四・四匁(大正十五年)乃至五六・二匁(昭和七年)(八回の平均四四・八匁)即ち凡そ四〇匁内外のものになつて居る。

次に第一、第二號池の三年魚に於ては春の放養時二八・三匁(昭和二年第一號池)乃至四五・六匁(昭和六年第一號池)(總平均三五・六匁)即ち大體三十數匁のものであるが、秋の取揚げ時には六五・〇匁(大正十五年第二號池)

乃至一一九・四匁(昭和五年第一號池)(總平均九〇・〇匁)即ち凡そ八、九十匁見當のものとなつて居る。

内地の養鯉場であれば發生當年の秋十一月頃までには大部分五、六十匁、大なるものは一〇〇匁にもなり、翌年春五、六十匁のものを四、五月頃より飼育すれば、秋十一月頃までには二〇〇匁内外に成長すると云ふ(日暮、昭和十四年)に比較すれば誠に不成績な結果である。

此の不成績は内地に比して低温度なること、飼育期間の短少、其の他の原因に依ることであるが、北海道に於ても本試験に於けるよりは春及び秋に於て更に少しく飼育期間を加へ得べく、其の他の改善によつて此の試験成績よりは更に多少の成績を期待することが出來ると信ずる。

3. 坪當りの生産量

各試験池に於ける各年の一坪當りの生産量に付ては第一表乃至第三表に示す如くであるが、生産量の最小と最大とを各池より摘録すれば次の様である。

	最小(年次)	最大(年次)
第一號池	五・九匁(大正十五年)	三七・五匁(昭和五年)
第二號池	八・四匁()	二五・六匁()
第三號池	三三・三(昭和六年)	三九・六(昭和七年)
三池平均	九・九	二七・五

即ち成績優秀な場合には三百匁を超過して居るが成績不良の年には僅かに百匁に達しない、但し斯くの如き不成績

は大正十五年に第一及び第二號池に於て見たのみであつて第一、第二、第三號池に於ける各年の成績の平均は各池夫々二〇三・九匁、一八五・二匁及び一六七・七匁で、更に之を平均すれば一八六・二匁となる。

此の生産量も内地のそれに比すれば劣る價であるが然し本試験に於ても最良の場合には三百匁を越した例もあり、三池に於ける最良の平均が前記の如く二七九・五匁であつて北海道に於ても普通の止水池に於て坪當り三百匁内外の生産は揚げ得ることと思はれる。

四、越冬池並に越冬試験結果

北海道の如く寒冷な地方に於ける鯉の越冬は普通特別な小面積の冬圍池に於て行はれるが、本試験に於ける越冬には面積十二坪(六間×二間)の冬圍池の一部、七坪ばかりを仕切つて使用した、此の冬圍池は水深三尺數寸で周圍に土留の板柵を廻らし、池上には雪除けの小舎を設け、池水は冬期間も結氷せぬ程度に通水してあつた。

越冬の期間は凡そ九月末乃至十月初めより翌年五月初め乃至中頃に及んで居り、長きは二二六日、短かくも二〇二日にして全平均が二一七日であつた。

第四表は大正十四年の冬から昭和七年の冬に至る間の越冬試験結果であるが此の中昭和二年の冬には冬圍池への通水故障があり越冬魚の異常な斃死を來したので之を除いてある。

第四表 冬 園 成 績

冬園期間	冬園日数	秋の收容時 尾重 一尾平均體重	翌取 春揚 の時 尾重 一尾平均體重	差 尾重 一尾平均體重	歩 尾重 一尾平均體重	冬園中池水 事故あり 試験中止	昭和2.10.8 ~ 同3.5.4	昭和3.10.6 ~ 同4.5.18	昭和4.10.5 ~ 同5.5.2	昭和5.10.4 ~ 同6.5.8	昭和6.10.7 ~ 同7.5.11	昭和7.10.8 ~ 同8.5.17	平均	
大正14.10.4 ~ 同15.4.23	202日	3,489尾 191貫680 55匁3	3,161尾 163貫270 51匁7	308尾 28貫410 3匁6	8.9% 14.9% 6.5%		224尾	1,619尾 62貫790 38匁8	1,757尾 79貫100 45匁0	1,727尾 89貫450 51匁8	1,524尾 59貫650 39匁3	1,666尾 75貫161 45匁1	222尾	47匁3
大正15.9.23 ~ 昭和2.5.7	226尾	3,607尾 148貫370 41匁1	3,444尾 126貫087 36匁3	163尾 22貫283 4匁8	4.5% 15.0% 11.7%		294尾	1,719尾 63貫790 38匁8	1,734尾 71貫000 40匁9	1,701尾 76貫500 44匁4	1,524尾 59貫650 39匁3	1,666尾 75貫161 45匁1	222尾	40匁1
昭和2.10.8 ~ 同3.5.4							210尾	1,810尾 77匁4	23尾	26尾	67尾	97尾		
昭和3.10.6 ~ 同4.5.18							180尾	1,810尾 77匁4	8尾100	12貫950	11貫250	20貫639		
昭和4.10.5 ~ 同5.5.2							7尾4	1,810尾 77匁4	4尾1	7尾3	5尾3	9尾2		
昭和5.10.4 ~ 同6.5.8							130尾	1,810尾 77匁4	1.3尾	1.5尾	4.2尾	5.5尾		
昭和6.10.7 ~ 同7.5.11							29.6尾	1,810尾 77匁4	10.2尾	14.5尾	15.9尾	21.5尾		
昭和7.10.8 ~ 同8.5.17							10.1尾	1,810尾 77匁4	9.1尾	14.3尾	11.9尾	16.9尾		
平均														5.6% 17.4% 12.8%

五、越冬試験成績の考察

1. 尾数の歩減

冬園池に越冬せしめた魚は第四表の如く最も小さな年で一尾平均三八・八匁（昭和三年）最も大きな年で同五五・三匁（大正十四年）で全平均が四七・三匁に當り各年共二才の秋から三才の春に亘つて越冬したものである。

各年の冬園中の尾数の歩減を通算すると、最少が一・三%（昭和四年）であるが最多が一三・〇%（昭和三年）に達し、年によつて非常な差を見るのであるが總平均は五・六%に相當する。

此の歩減は先に記述した三才魚の六月乃至九月に亘る飼育期間中の歩減の平均九・六%に比較する時には冬園期間がはるかに長いにも拘はらず其の歩減が却つて四%少なくな

飼育期間中よりも其の斃死、其の他による尾数の減耗の少なきことを示して居る。

2. 總重量の歩減

魚の重量の歩減は越冬魚を全體として見た場合と各個體の體重の減耗とに分けて考察して見る。

先づ總重量の歩減、即ち冬園中に於ける各尾の體量の減耗と斃死魚等による減重とを合したものに於ては、最小が一〇・二%（昭和四年）最大が二九・六%（昭和三年）で全平均が一七・四%に相當する。

之によれば北海道に於ける二才から三才への越冬中の、斃死魚等を加へた總重量の歩減は平均凡そ二割と見れば大

差がないものと思はれる。

3. 魚體重の歩減

次に越冬魚の一尾平均の體重の減耗を見ると、最小六・五%（大正十四年）より最大一九・一%（昭和三年）に及び其の差一二・六%で案外に相違の大なるに氣付くのであるが歩減の全平均では一二・八%に相當する。

尚越冬中に於ける體重の減耗に就ては十尾又は五尾の鯉を一團として屋内の水槽（三尺×二尺五寸、水深八寸）中に越冬せしめた實驗があるが、其の結果は第五表の如くである。

第五表 水槽中の越冬試験（其一）

項目	試験期間		第一槽	第二槽	第一槽	第二槽	第一槽	第二槽
	昭和7年10月15日 ~ 同8年5月10日	昭和8年10月20日 ~ 同9年4月28日						
試験日数	198日	198日	198日	190日	117日			
收容時 尾重 一尾平均體重	10尾 1貫550	10尾 1貫270	10尾 1貫110	10尾 1貫108	5尾 0貫738			
	10尾 1貫380	10尾 1貫380	10尾 1貫110	10尾 1貫108	5尾 0貫693			
取揚時 尾重 一尾平均體重	170匁	160匁	160匁	176匁	45匁			
	170匁	170匁	160匁	176匁	45匁			
減耗歩	11.0%	12.6%	12.6%	13.8%	6.1%			

此の實驗結果中、昭和九年のものは其の期間が他に比して二月月除も短かくあつたが其の歩減が最も少なく六・一%に留つて居る、然し他の三回の試験に於ては一一・〇%乃至一二・八%で大差がなかつた。

第六表

水槽中の越冬試験 (其ノ二)

項目	昭和三年9月22日~同四年5月2日 (232日)				昭和四年10月5日~同五年5月3日 (312日)						
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	5	計
収容時 の 尾の 体 重	44尾	49尾	60尾	150尾	303尾	51尾	58尾	60尾	69尾	84尾	322尾
取揚時 の 尾の 体 重	34尾	44尾	48尾	125尾	251尾	44尾	51尾	43尾	60尾	76尾	274尾
減耗體重	10尾	5尾	12尾	25尾	52尾	7尾	7尾	17尾	9尾	8尾	48尾
歩減	22.7%	10.2%	20.0%	16.7%	17.2%	13.7%	12.1%	28.3%	13.0%	11.6%	14.9%

備考 用水は大塚野用の水道水を使用し、當時並みに注水して居つた、水温常に九度内外。

此の實驗結果より昭和三年と四年とに於ける歩減の最少最多を摘録して見ると次の如くである。

年次 最少 最多 差
昭和三年 一〇・二% 一二・七% 一二・五%
昭和四年 一一・六% 一八・三% 一六・七%
兩年に於て多少の差はあるが各個體の體重の歩減に案外大きな相違のある結果が出て居る。而して兩年の各個體の減重の平均に於ては夫々一七・二%及一四・九%で大差がな

以上の水槽中の越冬試験は、前記冬圍池に於けるよりも測定等に於て正密を期したものであるが此の數回の實驗結果を總合して見ると、個體的に相當な歩減の差のあることが認められ従つて又各年の越冬成績に相當のひらきが出て來ることも肯定されるのであるが越冬試験期間の特に短かつた昭和九年を除き昭和三、四、七、八年の結果では、最少一一・〇%(昭和七年第一槽)最多一七・二%(昭和三年)總平均が一三・九%に相當し前述の冬圍池に於ける七ヶ年の平均一二・八%と相近き價を示して居る。之を日暮

(昭和九年)阿部(昭和七年)等の示す歩減に比較する時には稍、良好な結果である。

六、要 約

1. 元北海道帝國大學附屬水産専門部の養魚實習池に於ける大正十四年より昭和七年に至る鯉の飼育及び越冬試験の成績を述べたものである。
2. 飼育中の尾數の歩減 二年魚に於ては特別な場合を除いた六回の試験結果の平均が一六・八%となり三年魚に於ては十五回の試験結果の平均が九・六%に當る。此等は何れも各年魚の歩減として少々多い結果と思はれる。
3. 成長度 二年魚に於ては五匁内外の仔鯉を六月初に放養して秋九月末迄には凡そ四十匁内外に、三年魚に於ては春三十匁匁のものを放養して秋迄には八、九十匁に成長する。之は勿論内地に於ける養鯉の成長度に比し、はるかに劣るものであるが本道に於ても本試験成績よりは飼育期間の延長、其他の改善により更に多少の成長を期することが出来ると思ふ。
4. 坪當り生産量 本試験に於ける最良の成績では三百匁を越した例もあるが、本道に於ても三百匁程度の生産は揚げ得るものと思はれる。
5. 越冬中の尾數の歩減 凡そ十月初めより翌年五月初めに至る(魚は二才の秋より三才の春に至る)越冬試験七回

6. 同總重量の歩減 秋に冬圍池に收容後、翌年春之を取揚ぐる迄に減耗せる總重量は七回の平均に於て一七・四%であつた。
7. 同魚體重の歩減 冬圍池に於ける七回の平均及び屋内水槽中に越冬せしめたる數回の實驗に於て、共に凡そ一三%内外の歩減を示して居る。

參 考 文 献

明治四十五年 日暮 忠著 水産養殖學
昭和七年 阿部 圭著 實地應用養魚の研究(鯉鯪篇)
同 八年 藤田 經信著 水産養殖學
同 八年 石川 久治著 學理實際 養鯉法解説
同 九年 日暮 忠著 收益本位水産養殖大成
同 九年 德久 三種著 養 鯉
同 十四年 日暮 忠著 養魚の實際
同 十七年 青木 三雄著 養魚の科學

養魚池の浮游性藍藻類が水質及び魚類に及ぼす影響に就いて

北海道水産孵化場 江 口 弘

榮養分の多い湖とか、池沼、養魚池などの表層水は水温が高く日射の強い夏には藍藻の群集の爲に青い粉を撒いた様に色が付くものであるが、これは一般に植物色 (Vegetationsfärbung) 又は水の華 (Water bloom) と呼ばれてゐる。これを形成する主なる藍藻類は *Anabaena*、*Aphanizomenon*、*Microcystis* 等があり、*Microcystis* は小さく淡青色の細胞が大集團を作り水面を見ると青い粉を撒いた様であるから養魚家はこれを青粉と呼んでゐる。又

Anabaena、*Aphanizomenon* 等は細胞が長い糸状體を作り、細い毛の様に見え糸状體がもつれ合つて浮んでゐるので冬より青く濁つて見えるものである。これ等藍藻類からなる夥しい水の華の出現は小池、沼、養魚池等には普通なものであり一般に水の華を形成する處では夏期水面が此等プランクトン藻類の爲にアルカリ性が増すものであるが特に藍藻の水の華によつて著しくアルカリ性とされる事が知られてゐる。SKADVSKY はロシアの藍藻の水の華を主とする富榮養湖で PH9.6—9.9 に及ぶ事を觀察し我國でも吉村氏は埼玉縣、高須賀沼に藍藻の現はれる時は湖水は急

よし時はプランクトン藻類は非常な勢で蕃殖する結果晝間は水中植物の同化作用が甚だしく盛んなために水中酸素は急激に増加し遊離炭酸は消費される結果水中に於ける炭酸の平衡を保つために HCO_3^- が失はれ HCO_3^- が増加する事に原因して PH は高くなるが反對に夜間となり日光の照射が絶へた時は同化作用が全く休止して水中動植物の呼吸、細菌の有機物分解作用のみが盛んとなるから急激に水中酸素を消耗し、炭酸瓦斯は増加する結果 PH は低下する。筆者が (1948. 7. 19) 水産孵化場養魚池での觀察結果を記述すれば當日養魚池の状況は *Microcystis* の水の華を形成し午後二時、水温 33.0°C 、PH9.8 の強アルカリ性で池水一〇立中のプランクトン沈澱量は 1000C.C. の多量を見た。池の面積 10.1×6 坪、水深二尺、底質浮泥、長期間止水の状態で二年生金魚七五尾、當才色鯉約九〇〇尾を放養飼育中であつた。酸素は正午頃其の最高に到つて 6.76cc/l (133%) で炭酸瓦斯は午後最低を示し 1mg/l PH は上昇して正午 9.8 を示したが日没と共に酸素は次第に減少して翌朝日出時一時間位で其の最低に到つて 1.53cc/l (21.6%) を示し炭酸瓦斯は最高に到つて 11.0mg/l PH は低く 7.4 を示した。この様に養魚池に於ける酸素イオン濃度は晝間濃度高く、夜間は低下し、酸素の晝中變化と相伴ふ一方、炭酸瓦斯は晝間其の含有量少く夜間は其の量を増加し酸素、水素イオン濃度と全く反對の増減を示すものである。筆者の

に強アルカリ性となる事を報告し根來氏 (1933) は茨木縣神の池で *Anabaena* の珍種である *Anabaenopsis Raichowitschi* が三ヶ月に亘つて水の華を形成した事を發見し七月八日、午後二時—三時、表面水温 26.9 度で PH 9.9 の強アルカリ性を報告してゐる。又養魚池に於ては渡邊氏 (1935) の研究があり北大養魚池で八月二十八日 *Microcystis* の水の華形成時、午後二時、水温 27.3 度で PH 9.2 を觀察しプランクトンの沈澱量一立中 100C.C. を報告してゐる。筆者は (1948. 9. 16) 水産孵化場養魚池で *Microcystis* の水の華形成時、午後二時、水温 25.8 度で PH 9.0 を觀測し、池水一〇立中の *Microcystis* の沈澱量 40C.C. を測定した。

此等藍藻類の過度の繁殖による水の華といふものは直接間接に水の物理的、化學的性質、並びに他の生物に對して可成り大きな影響を與へてゐる事は想像されるものである。直接の影響としてはプランクトン藻類の生理作用に關係したもので水中の酸素、炭酸瓦斯、及び水素イオン濃度等は水中植物の生理作用に影響される事が最も多い。養魚池に於て夏期水温が上昇して氣象的原因、水中榮養分の都合の今回の觀察で注目した事は酸素最低時 (夜明頃) 酸素量 1.53cc/l で全飼育魚が水面に浮上し鼻上げを實施してゐた事では酸素の缺乏と水温が高かりし事が主要原因をなしたものと考へられる。斯様に植物性プランクトンの過度の繁殖は夜間その旺盛な呼吸作用のため酸素最低時に危険を伴ふ恐れがあるから所謂濃厚池水とならない様に適當の注水が必要と認められる。魚の體温は大體水温と共に昇降するから水温が低い場合は呼吸数が少く従つて酸素量を多く必要としなが水温が高ければ運動が烈しいから呼吸酸素を多量に必要とする譯で兩々相俟つて魚は鼻上げとなり斃死といふ事になる。しかも天候温暖な静温な時に多く鼻上げの起るのは前日最高酸素量が多量にならなかつたにかかわらず呼吸分解が盛んでしかも風や雨の様な物理的に水中に酸素を供給する事情も少ないためである。

池水の酸素イオン濃度は水中の生物、有機物等と密接な關係を持ち此等の状況の相違によつて夫々その價を異にするものである。一般に水中生物は弱アルカリ性の水を好むものであるが魚も又同様で水質が酸性になると生理上の關係から水中の酸素を吸収する事が困難になつて來て酸素が多くあつても夫は完全に利用されないものであるが反對に水中の酸素が稍々少なくても水質が適度のアルカリ性であれば酸素は十分に利用される。水の酸性が余り強かつたりアルカリ性が烈しかつたりすると天然餌料の蕃殖がさまたげ

られ又魚は酸やアルカリの直接の害のために斃死する事になる。自然の水は $PH5.0$ 以下に降る事や $PH9.0$ 以上になる事はまれであり養殖用水としては $PH6.8-8.0$ を最適とし $PH9.0$ 以上 $PH5.0$ 以下は不適當とされてゐる養魚池等の水に於ては其の PH は主として有機的因子、即ち土壤中の腐殖質及び餌料の残渣、水中動植物の呼吸及同化作用、水中動植物の死體等の酸酵、腐敗、分解等に左右されるものである。

水中植物が同化作用に利用し得る炭酸は先ず遊離なもので植物の多い水界では遊離炭酸が常に到する事が珍らしくないと云はれてゐる。尙更に進むと半化合炭酸が使用されそれが爲に炭酸カルシウムや炭酸マグネシウム等が折出されその沈澱を見る事さえあると云はれてゐる。大島氏(1935)はある養魚池に於て質見された池水の白濁は氏の分析によつて大部分はカルシウムであつた事を述べてゐるが之は前述の様にして出来たものと考へられる。而してこの白濁が早朝稀薄で午後に向つて最も甚だしかつたと述べてゐるがこれは植物に依る炭酸瓦斯の生成の盛衰を明かに物語るものである。

以上述べた如く養魚池に於ける藍藻の過度の蕃殖は直接に水質並びに他の生物に悪影響を興へる事は明かであるがこれの適度の蕃殖は魚の最も大切なミチノコ類其の他の蟲類の餌となり呼吸作用により平時水中酸素が補給され魚の

呼吸を助け養魚池ではなくてはならないものである。愛知縣、静岡縣等養鱒の盛んな地方では従来より養魚家は適度の藍藻の青粉を良好な養殖用水の基準としてゐる。又最近 Weiman (1935) はドイツ、シュレエヂェン地方に於て青粉によつて同地方の養鱒池の等級をきめる事を發表してゐる。これに依れば

一、榮養分の乏しい最も悪い池は一年中透明な水を持つてプランクトンの数は少なく種類の多いのをもつて特徴とする。

二、次の階級の池は時々緑色に染められる。即ち多數の *Anabena* 其他の藍藻類及び多數の綠藻を含む。

三、最後の池は一年中緑色を呈し *Aphanizomenon* が大部分を占め他の藍藻及び綠藻が殆んどなくなる。

以上の様にして Weiman に依りシュレエヂェン地方に於ける多數の池について精密な研究、比較對照の結果がこれ等藻類の發生と收穫増加の關係が實證され、池の緑の着色によつて池の階級が判斷されてゐる事を附記し御參考に供したい。

(114・1・3)

揚子江流域の淡水魚に就いて (下)

北海道鮭鱒 養殖水産組合 並 木 延 郎

以上で大體揚子江流域に産する重要食用淡水魚類と特異な二、三種を紹介した。

次にこれを要譯すると左の通りである。

華名	異名	和名	種				備考
			海	汽水	淡水	日本	
虎魚	鱒魚	へらちようざめ	○	○	○	○	昭和四年岸上博士によつて發見
象魚	鱒魚、白鱒、鮪	しなちようざめ	○	○	○	○	揚子江特産
黃鱒魚	著甲、黃鱒、鱒魚	じぎよ	○	○	○	○	
鱒魚	鱒魚、三鱒魚、鱒魚	げつぎよ けいぎよ	○	○	○	○	
刀魚	桂魚、石桂魚、貴魚	ちようせんえつ	○	○	○	○	
銀魚	鱒魚、鳳尾魚、鱒魚 小鱒殘魚、鱒魚 王家魚	しなしらうを	○	○	○	○	
大銀魚	鱒殘魚、王筋魚	おうしらうを	○	○	○	○	
鮎魚	鮎魚、鱒、鯉鱒	なまざ	○	○	○	○	
鱒魚	鮎魚、鮎魚、鱒魚	ちようこうふか	○	○	○	○	
草魚	鮎魚、白鮎魚、鱒魚 鱒魚、混子魚、	そうぎよ	○	○	○	○	重要養殖魚 自昭和十六年 至昭和二十年日本に移殖

日本學術協會報告、二三卷、四號
北海道湖沼動物相の特性

動物學雜誌、五〇卷、四號

上野 益三 (一九三八) 北海道に於ける湖沼水質

の化學的特性及びプランクトン

北海道水産試験場事業旬報

四七八—四八九號、後編

(一) 渡島 大沼湖群

駒ヶ丘南麓にあり大沼、小沼、蕁菜沼より成るもので風光の明媚なるを以て喧傳されてゐる。大沼は海拔一三〇米面積五・一二平方科で宿野邊川、軍川、薊淵川其他の流入川を有し北東端銚子口から折戸川となつて排水する。大正五年最深部一三・六米を測つたが昭和四年六月の駒ヶ岳噴火後湖底は一般に淺くなり現在大體増水期にも一二・二米が最深の様である。底質は大部分黒色泥でその表層には珪藻、藍藻等の骸泥が混つてゐる。湖水は富栄養化し水色黄綠色を呈し透明度三・五米以下、通常二—三米である。例年十二月上旬乃至中旬より三月下旬乃至四月上旬まで結氷する。本湖は淺く廣いため風による湖水の擾動激しく結氷期以外は成層が亂されるが、夏季停滞期に無風の日が続けば最深部は無酸素状態となる事がある。

大沼を涵養する河川は駒ヶ丘から來るものであるから昭和四年の駒ヶ岳爆發は大沼の水質に大きな影響を與へた。

副湖盆をなしてゐる。注入川はこの副湖盆に宿野邊川から分れた細流が入つてゐるが注入部のすぐ傍で排水路を通じ同じ宿野邊川に流れ出してゐる。水質は前記二湖と異なり水色褐色を帯び透明度一—二・二五米しかなく、反應は多少酸性に傾いて居り酸素も減少してゐる。之等は腐植質の影響によるもので殊に副湖盆の方は腐植質が進行してゐる。腐植質の多い水域は鐵が多量に含まれてゐるもので鐵の含有量多いところには蕁菜が生育し本沼も有数の蕁菜採取地となつてゐる。

上述の如く本湖群は蕁菜沼は多少腐植質が蓄積してゐるが大沼、小沼は何れも典型的な富栄養湖で生産力高く年産漁獲高二〇、三二六貫(昭一八)(道廳調査、以下同じ)に及んでゐる。生産物の主なものはワカサギ、コヒ、フナ、ウナギ、ドデヨウ、スデエビ、ジュンサイ等であるがワカサギは昭和二年始めて網走湖から種卵を移植し其後人工孵化放流及天然繁殖で殖へたもので今は大沼名産となり種卵を他湖へ供給するまでに至つた。

抑々北海道の湖沼養殖事業は明治九年開拓使によつて東京から蕁菜沼にコヒ、フナ、ウナギを移したのが始まりで其後本湖群に移植されたものには前記ワカサギの外スデエビ、ヒガイ、ヒメマス、アメマス、マス、クラッビー(米國より)シロマス(露國より)等がある。併しヒガイ以下の魚類は移植結果が不成績であつた。

之に反し小沼、蕁菜沼の涵養地域は地形上駒ヶ丘の水の影響を蒙らない場所である。仍つて大沼の水質は他二湖と甚だ趣を異にし可溶性全固形物及無機物質は他二湖の約三倍、硫酸鹽は約二倍、硫酸鹽は小沼の五倍、蕁菜沼の約一〇倍を含有してゐる。更に興味を感ずるのは冬期停滞期に底部に可溶性全固形物、無機物質並に硫酸鹽の異常増加が認められ、その水質が駒ヶ岳より湧出する泉水靈泉水の水質と甚だよく似てゐる事である。即ち駒ヶ岳全山の水が各所より水面下で湧水をなして大沼に注入してゐる様に想像される。

大沼の底棲生物は *Chironomus plumosus* (オホユスリカ) 幼虫が大部分を占め其の外他のユスリカ幼虫や食毛類がみられ所謂 *Punosea* 型である。プランクトンは豊富で殊に植物性プランクトンが多い。プランクトン量は秋に最も豊富で次は春が多く冬には最小となる。

小沼は大沼の南西に位し海拔大沼に等しく、面積三・八平方科を占め最深部は五・五米である。結氷期及解氷期は大沼より数日早いのが普通である。流入川は細流のみで排水はセバットで鐵道の下を通り大沼に注がれる。水色、透明度大沼と大體同じでプランクトンも大沼に似て珪藻類が多量である。

蕁菜沼は湖面高く海拔一五六米に位し面積〇・七五平方科、最深部五米で湖盆北方に括れあり、蕁菜小沼と云はれ

(二) 狐狗狸湖及岩雄登沼群

狐狗狸湖は雷電山西南部山腹海拔五七五米の處に生じた堰止湖で面積五四八〇平方科、最深部八米を有し、水は綠色を帯び透明度五米餘、プランクトンは比較的少量である。エゾサンセウウオが棲息するばかりであつたがニジマス、ヒメマスが移植された事がある。

岩雄登沼群は雷電火山脈中にある大沼、長沼、中沼等で海拔八五〇米乃至七七〇米にあり、大沼は火口に生じたもので面積八二・七平方科、最深部一五米を測り水色青綠色、透明度一〇米で水は中性である。プランクトン比較的多く就中梔脚類 *Acanthodipionus yamanacensis* が多い。長沼は堰止湖で面積六二・三平方科、最深部五・三米、水色綠色に近く沼底まで透視出来る。中沼も磐岩堰止湖ですつと小さく、附近は泥炭地で高位濕原をなしてゐる。

(三) 半 月 湖

蝦夷富士(マツカリヌブリ)西麓の側火山上の火口に生じたもので海拔二七〇米に位し、面積〇・〇四五平方科、湖底は深さ三米位の底面の東部に陥没せる潜窪を有しその最大深度一八・二米に達する。流入川、排水川共に存在しないが少し離れた處に湧出する泉水は湖底よりの漏水によるのではないかと云はれる。湖底泥土は半流動性で多量の落葉と笹藻を含み黄褐色を呈してゐる。

湖水は富栄養化し水色褐色で透明度三―五米である。夏季停滞期に於ける水温の成層は著しく特に三―四米間の温度傾斜は六・六度(攝氏)に及び本邦湖沼中有数の飛躍度を示してゐる。この躍層は丁度窪窪の上部に相當して居り、窪窪内一二米以深の水は周年五―七度を保つてゐる。斯くの如く周年に亘つて最大密度温度たる四度を越へた温度の水が深部に存在するのは湖底湧泉の影響ではないかと考へられる。水素イオン濃度は四米まではアルカリ性であるが五米より急に酸性となりその變化する境界がはつきりしてゐる。酸素も六米に下ると急に減つて七米以深は極めて微量となり、酸素の消失した深層には硫化水素が含まれてゐる。本湖の深水層は生化学的原因による高鹹水が周年停滞し春秋の湖水の循環は上層のみに限られ所謂部分循環湖と稱せられるものである。

底棲生物は *Chironus plumosus*, *Glyptotendipes*.

の二種のユスリカ幼虫が約四、五米以淺に棲息しそれ以深は完全な無生物帯をなしてゐる。プランクトンも深層には存在せず、上層には枝角類、輪虫類、珪藻類がかなり豊富にみられる。高等動物は在來エゾサンセウウオのみであつたがコヒ、フナ、ヒメマス、ウナギ等が放養された事ありコヒ、フナ等は繁殖してゐる。

(四) 洞ヶ爺湖

本湖の産物ヒメマスは明治二十六年阿寒湖から種卵を移入したのに始まるが、本湖の環境はヒメマスに適してゐるらしく魚體が大きくなつてその原種たる海棲のベニマス (*Oncorhynchus naka*) の形態に復歸したかの觀がある。ヒメマスの主要餌料は *Daphnia longispina hyalina* で支笏湖のヒメマスが *Acanthodiptomus* を主要餌料としてゐると對照的である。この外コヒ、ニジマス、ワカサギ、ホンマス(サクラマス)、シロマス等も他より移植された。主要漁獲物はワカサギ、ヒメマス、マス等で年産八、七一五貫(昭一八)に達する。

(五) 倶多楽湖

登別温泉より二・五軒の地にある火口湖で海拔二七九米にして輪郭殆ど圓形、湖周は環壁によつて繞らされ流入川、排水川共に存在しない。處々に湖岸より沖に向つて深い岩の裂目がありエンガマと呼ばれてゐる。面積三・四三平方軒を占め湖盆は急傾斜して深くなり最大深度一四七・五米を測る。底質は浮泥の沈積少く大體白色浮石より成り樽前山噴出物が堆積したと考へられる。例年一月二十日頃から四月下旬まで結氷してゐる。極端な貧栄養湖で水は藍色を呈し透明度二―二・四・三米を記録する。

湖底生物はユスリカ幼虫と貧毛類より成り、プランクトンは貧弱で特に植物性プランクトンは微量である。稍々多

有珠、虻田兩郡に跨る大湖で山水の景觀に富み湖畔に温泉湧出し觀光行樂の地として名高い。湖岸月浦には函館水産専門學校臨湖實驗所がある。

成因は火山地帯に生じた大規模な陥没で所謂カルデラ湖と稱せられるものである。湖面海拔八三米で湖中に中ノ島、觀音島、饅頭島の三島あり、島を除いた面積六九・六平方軒に及ぶ。本湖の最大水深に就ては明治三十五年水路部の測深では一八八米とされたがその後の調査ではこの深さは發見されず、大體一七九・三米が最大だらうと信ぜられる。流入川は幌別川を最大とし他に小川十三本あり、排水は南東縁の壯瞥川で行はれ直ちに瀧となつて長流川に合流する。本湖は北海道としては温暖な地である上に海拔低く而も湖が甚だ大きく深くて全體が冷却され難いから冬期も湖面に結氷をみない。

水色は青色、透明度は一三―一七米位であるが昭和十三年には一三・五米が測られた。貧栄養湖であるから深層まで酸素は十分溶解してゐる。底棲生物は貧栄養湖の特徴を現はし、酸素の欠乏に耐へない *Tanyarsus scintillus* (ユスリカ) 幼虫や端脚類、貧毛類が分布する。プランクトンは植物性少く、著しいのは橈脚類 *Cyclops strenuus*、枝角類 *Daphnia longispina hyalina* 其他で、支笏湖に多量に棲息する橈脚類 *Acanthodiptomus yamanacensis* は本湖では發見されなす。

いのは枝角類で又橈脚類 *Acanthodiptomus* は以前分布しなかつたが人工的に移されて繁殖し現在は採集される。魚類の移植は明治四十三年のヒメマス放流を始めウグイ、コヒフナ、カチカ等の移植が試みられたがプランクトンが少なから増殖成績は思はしくない。本湖のエゾサンセウウオは成長後も鰓を有し所謂幼形成熟の現象を呈する事が知られてゐる。

(六) カルス沼 (ウバシアン沼、橋池)

登別温泉の奥にあるカルルス温泉に至る約一軒手前右方にあり、その成因は火口生成後の陥没によると思はれる。海拔四三〇米、面積〇・二二五平方軒を有し最大深度一三・八米を測る。川は一つもなく湖面は十一月下旬より四月下旬までの間結氷に覆はれる。水色緑色で多少暗色を帯び、透明度四―八米位である。水質稍々酸性で溶存養物質は少く貧栄養湖に屬し、プランクトンも少量である。エゾサンセウウオが棲息してゐるだけであつたが明治四十二年ウグイを放養し後コヒを移植してよい成績をあげた。ヒメマスの移植は成績不良の様である。

(七) 支笏湖

北海道一の大きさを有する廣大なカルデラ湖で千歳より約二〇軒で達する。湖畔は鬱蒼たる森林をなし伏牛、樽前、惠庭の諸岳を湖周に配し雄大幽邃なる景觀を呈する。湖面

海拔二四八米、面積七七・二平方軒を占め、その深さは明治四十四年、最深部四五〇米と報告されたが其後詳細な調査の結果現在では三六三米が最大深度と信ぜられてゐる。實に田澤湖に次ぐ本邦第二の深湖である。流入川は美笛川、ニナル川、オコタンベ川等あり、排水は千歳川によつて行はれる。湖が廣く深いため冬季も極く稀にしか結氷する事はない。水は清澄で青藍色を呈し透明度二〇米内外を測る一〇〇以深の深層水温は夏季停滯期にも攝氏四度以下が示されるが之は冬季冷却された深層の水が低温を保持したもので、かゝる深層では高壓のため水の最大密度は水温四度以下に於て得られるから水層は安定してゐる理である。溶存化學物質は僅少で湖水は甚しく貧瘠養化してゐる。

底棲生物はオホユスリカ幼虫と貧毛類を主とし、プランクトン中最も著しいのは赤紅色の橈脚類 *Acanthodiaptomus yamanacensis* であり、*Daphnia longispina hyalina*、*Scapholeberis mucronata*、*Bosmina coregoni* 等の枝角類も普通にみられる。*Acanthodiaptomus* の赤紅色の呈色原因をなすカロチノイド色素は動物体内では合成されないものであるから餌となる微細な珪藻から由来するものであらう。本湖で採集されるヒドラが時としてやはり赤紅色を呈してゐるのは *Acanthodiaptomus* を捕食するためと考へられる。

尙本湖の *Acanthodiaptomus* は著しい晝夜移動の習性を有し日中は一五—二〇米に蟄集し夜間になつて表層に澤山現

が不足し魚體の小形化を來して種族として衰退しかけたところに濫獲と卵巢萎縮病の發生に遭ひ魚群は激減して大正十四年から六年間といふもの殆ど親魚が採捕されず止むを得ず樺提島ウルモベツから原種たるベニマスの卵を移入し又洞爺湖からヒメマス卵を入れたり等したが資源の回復は一時的で昭和十一年頃から再び衰退の兆候然となり現在は年産四、五〇八尾(昭一八)程度の漁獲である。

本湖に於けるヒメマスの主要餌料は *Acanthodiaptomus* であるがこの天然餌料増産の策として湖水の營養化を圖る施肥試験が行はれた事がある。即ち昭和二年から四年に亘り五回程毎回硫酸一〇貫匁を三〇匁、過燐酸石灰一〇貫匁を七〇匁、依湖中に投じ、その結果湖水中にアンモニア鹽の増加をみたるもその効果は昭和六年までしか續かず、又隣酸鹽は底土による吸着のため湖水に對する肥効はなかつた様である。

(八) オコタンベ湖

支笏湖北西邊に流入するオコタンベ川の水源をなす小堰止湖で海拔五七二米に位し湖岸は山麓迫り四つの小川が流入してゐる。湖水は南東端で巨岩の間から排出し直ちに瀑布となつて奔流しオコタンベ川となり數個の瀑布を経て支笏湖に注ぐ。湖面積積〇・四六平方軒、最深部二二米を測る。底質は大部分砂質で水は藍色を呈し極めて透明、水質

はれてくる。

本湖の棲息動物としては在來アマス(イワナ)、カヂカ、エゾサンセウウオ、ザリガニ等が擧げられるがこの中ザリガニは昭和二年頃から殆ど見られなくなつた。移植種としてはヒメマス、マス、ニジマス、シロマス、カハマス、ウグイ、フナ、スヂエビ等があり、その中マスは現在姿を見ずスヂエビはよく繁殖しニジマスも増殖してゐる。又フナは丸駒温泉附近や千歳川口、美笛川口で釣れると云はれる。昭和四年米國から移入したシロマスは昭和八年に一尾獲れた記録あり、又昭和六年米國から移入したカハマスは時々漁獲される事がある。最もよく増殖し當湖の名産となつたのはヒメマスであるが、ヒメマスは元來阿寒湖にアイヌ語でカバチエツボと稱する魚があり之が研究の結果海棲のベニマス (*Oncorhynchus nerka*) の陸封種なりと斷定されて明治二十六年千歳孵化場に卵を移して孵化試験を行ひ翌二十七年から三ヶ年に亘り阿寒湖から種卵を支笏湖に移したものである。そして新しく姫鱒の名がつけられて支笏湖湖畔シリセツナイ川口に孵化場を設け明治三十一年より本湖内でも採卵人工孵化放流が行はれた結果頗る盛に繁殖し本湖の最も重要な種類となつた。そして遂に本湖はヒメマス種卵の供給地となり道内外の諸湖に卵を移出し更に始め種卵の供給を仰いだ阿寒湖に對して逆移出を行つた事さへある。然し乍ら棲息量の増大と共に限られた湖内の餌料

は酸性 (PH 四・九—五・〇) で分析結果は硫酸鹽類々多量である。その他の化學物質は僅少で湖水は貧營養状態にあり、プランクトンも少く、その中では *Acanthodiaptomus* が著しい。高等動物としてはエゾサンセウウオとザリガニが棲息する。

(九) ウトナイ沼

勇拂郡植苗村にある褐色淡水沼で面積三・七五平方軒を占め最深部僅に〇・九米である。周邊は沼澤地で美々川外四流し南端の勇拂川から排水する。底質は火山灰を混じた砂質が大部分を占める。水質は略々中性であるが流入川河口近くは酸性を呈する。溶存物質は多量である。かくの如く沼澤地の川から腐植質が注入されてゐるが沼水が殆ど酸性ならざるため富營養化し生産力は大きい。腐植質の存在するとき水が酸性なれば營養物質は吸着されて生産力は低下するのが例である。

魚類はウグイ、イトウオ、フナ、コヒ、ウナギ、ウキゴリ、カヂカ、タカノハガレイ、フクドデヨウ、ワカサギ等が居りスヂエビも棲息する。主要漁獲物はウグイ、コヒ、スヂエビ等で年産二〇三貫(昭一八)に達する。本湖のウグイ (*Tribolodon hakuensis hakuensis*) は春婚期色を呈するが未産卵のまま勇拂川を下つて一日海に入り、後再び附近の別の川、例へば鶴川等に遡上して産卵を行ふ。この

様に産卵期に一旦降海してから別の川に遡つて産卵する習性は他に例のない處では沼内及勇拂川の川床が火山灰の泥土砂地で産卵に不適なためであらうと云はれる。

(10) 石狩古川

石狩川が石狩平野を蛇行する灣曲部は新流路の開鑿に伴ひ昭和六年五月本流との關係を絶たれて石狩古川と呼ばれる人爲的河跡湖となつた。その長さは一六軒を越へ最大深度は志美附近で一二米を測り、深層には嘗て本流時代に侵入せる海水が残存停滯してゐる。底質は九米以深は黒色軟泥が沈積し八米では灰色の粘土が之を覆ひ七米以浅では之に多少の砂質を混じてゐる。水色は褐色で透明度〇・六一〇・八米しかない。一〇米から下には多量の鹽分が含まれ最深部の底層の鹽素量六〇〇〇起/立以上に及び、酸素は一〇米以深皆無となつてゐる。この停滯層は秋の循環期の最中にも觀察され周年継続する可能性が多い。

底棲生物は好鹹性のユスカリ幼虫が優占する。尙奥部に於て底層まで淡水が占めるところにも好鹹性のゴカイ類 *Zonitarius* が底土中に發見されるのは底泥含有水中に鹽分が残存してゐるためであらう。この底泥含有水中の鹽分は除々に上部の水層中に溶け石狩古川は全體として年々淡水化されて行くものと考へられる。プランクトンは豊富で輪虫類が最も多く甲殻類も優勢である。主要漁獲物はワカ

鶴沼は幌向村にあり面積一・三七平方軒で瓢箪形をしてゐる。往時は四米位の深さがあつたが明治四十三年の大洪水後水深浅くなり、現在深さ一米以下である。排水川は昭和八年に夕張川から江別川に切りかへられた。腐植質のため沼水は黒褐色を呈し透明度は一五―六六種位しかない。冬季結氷中と雖も氷の下の周圍から泥炭地の水が滲透して來るので水は冬季一層酸性となり酸素も甚しく消耗される在來からカタドブガイ及イシガイが棲息してゐたがドブガイ(方言シマガイ)(昭和三―六年)及カハシンジユガイ(昭和六年)が移植され、又昭和六年北米から折角 *fat mucket* (*Lampisilis luteola*) が移植されたが酷寒時なりしたため死んで了つた。ウグイ、コヒ、フナ等が棲息し、榮養状態は良好であるが増水期に沼が氾濫して沼外に流されて了ふので養殖には不適である。鶴沼の北西二軒餘にある白鳥沼ではチシドブガイ (*Anodonta beningiana*) が發見される。尙以上の外に石狩川の流域には長沼、モエレ沼(丘珠沼)其の他多くの小さい泥炭沼がある。

(以下次號)

サギで、このワカサギは孵化後一ヶ月経た體長二・五種以下の時代には *Brachionus angularis* (輪虫類)、橈脚類の *Nauplius* 幼生、*Eurytemora affinis* (橈脚類) 等を食し、體長二・五種に達すると主に *Eurytemora* を攝り、體長三―四種を越すと *Eurytemora* のみを攝食する。二歳魚となつて體長八種以下の間は主として *Eurytemora*, *Leptodora kindtii*, *Mesocyclops leuckarti* 等を攝り、體長八種を越したものは遊泳索餌層が深くなる關係で下層に分布する *Neomysis interneta* を多量に攝食する様になる。

(11) 札幌附近の泥炭沼

札幌東方の低地帯には幾多の腐植榮養化せる泥炭沼が存在し比較的大きいものとしては千歳川流域にある長都沼、馬追沼、鶴沼等が挙げられる。

長都沼は恵庭驛東方約八軒にあり馬追沼は更にその東北約二軒の地にあつて兩沼共南北に長く約三軒の長さがある沼水は泥炭地から滲透する水のために腐植質に富み珈琲色で過マンガン酸加里消費量が高い。長都沼にはスヂエビ、モクズガニ、イシガイ、カハシンジユガイ、ヌマガイ、其他魚類が棲息し主要漁獲物はワカサギ、ウグイ、フナ等で年産二、〇七〇貫(昭一七)を揚げてゐる。戦時中濕地帯の干拓のため排水溝が造られたので沼の水位は一層低下して來た。

彙報

北海道鮭鱒養殖水産組合の解散

昭和二十一年九月一日付をもつて北海道知事の認可を得て設立された北海道鮭鱒養殖水産組合は爾來滿三箇年間、其の使命とする北海道水産孵化場の事業に協力し鮭鱒族の蕃殖保護を圖り本道鮭鱒漁業の健全なる發達を促し以て組合員の共同利益を増進して來たのであるが偶々漁村民主化のため公布された水産業協同組合法の實施に伴ひ昭和二十四年九月十六日同法に基き新に設立された北海道鮭鱒漁業協同組合に其の事業一切を繼承するため發展的解消をなすこととなり組合員總數六百七十五名中四百五十六名、即ち三分の二の同意を得たので同年九月三十日札幌市南三條西六丁目ニューグランドにおいて臨時總會を開催し滿場一致左記五名を清算人に選任して解散することに決議をなした而して同年十月二十四日付を以て北海道知事より解散の認可があつたので茲に滿三年間の榮えある活動の幕を閉じた

記

清算人 半田芳男氏 (組合長)
植松適氏 (副組合長)

同 三好竹勇氏 (理事)
 同 大西眞平氏 (理事)
 同 本田善助氏 (總代)
 因に同臨時總會における半田組合長の挨拶要旨は巻頭掲載文の通りである。

北海道鮭鱒漁業協同組合の設立

水産業協同組合法の實施により本道一圓を地區とする鮭鱒の業種別漁業協同組合を設立し業者の經濟的社會的地位の向上を圖ると共に北海道鮭鱒養殖水産組合の事業を繼承して鮭鱒資源の維持確保を圖るため昭和二十四年四月三十日鮭鱒漁業者、大西眞平外十九名の設立發起人、札幌市ニユールランドに參集して其の自由なる意志の下に慎重協議して目論見書を作成した。

次で昭和二十四年五月二十五日設立發起人、大西眞平外二十四名同場所に參集して設立準備會を開き全員二十五名を定款作成委員に選任し、同委員において定款の作成があつたので同年六月二十七日創立總會を開き定款の承認、事業計畫の設定、その他必要な事項を定め理事及び監事を選擧し同年九月十六日付を以て農林、大藏兩大臣の認可を受

け同年十月一日理事、半田芳男外十四名が滞りなく設立事務の引渡を受け、同年十月三十日出資の拂込が完了した。よつて同年十一月十一日札幌法務局において左記事項の登記を完了したので茲に法人として完全に成立した。

記

- 一、名稱 北海道鮭鱒漁業協同組合
- 二、事務所 札幌市北五條西參丁目壹番地
- 三、地區 北海道一圓の區域
- 四、目的

- (一) 組合員の事業又は生活に必要な資金の貸付
- (二) 組合員の貯金の受入
- (三) 組合員の事業又は生活に必要な物資の供給
- (四) 組合員の事業又は生活に必要な共同利用に關する施設
- (五) 組合員及び組合の事業施行に伴ふ漁獲物その他生産物の運搬、加工、保管又は販賣
- (六) 組合員の遭難防止若くは遭難救済に關する施設又は漁船保險の斡旋
- (七) 鮭鱒族の人工孵化及び天然蕃殖保護の施設
- (八) 鮭鱒漁業の改良發達を促すための試験及び調査
- (九) 鮭鱒漁業の技術及び組合事業に關する知識の向上を圖るための教育並に組合員に對する一般的情報提供に關する施設

(一〇) 組合員の經濟的地位の改善のためにする團體

協約の締結

- (一一) 前各號の事業に附帶する事業
- 五、出資の總口數 四百參拾口
- 六、拂込たる出資の總額 金四拾參萬圓
- 七、出資一口の金額 金壹千圓
- 八、出資拂込の方法 全額一時拂込とする
- 九、理事及監事の氏名、住所

組合長	半田芳男	札幌市南十四條西一丁目十四番地
副組合長	大西眞平	紋別郡紋別町大字紋別村九十四番地
副組合長	石田露松	増毛郡増毛町大字阿分村三十九番地
専務理事	船越鶴男	札幌市南二十條西五丁目
常務理事	千石吉雄	札幌市北五條西二十丁目七番地
理事	相原重治	石狩郡石狩町大字辨天町字濱町
同	米澤勇	山越郡八雲町大字八雲村字遊樂部無番地
同	三好竹男	白老郡白老村五百十三番地

理事	三上重藏	樺似郡樺似村字樺似百八十一番地
同	水澤一郎	十勝郡大津村大字大津字大津
同	堺哲彌	十勝郡大津村大字大津村汐見通八番地
同	榎本仁太郎	厚岸郡濱中村大字霧多布二の通り三十二番地
同	稻垣純三	根室郡根室町本町四丁目四十八番地
同	佐々木繁太郎	標津郡標津村字崎無異モト十六番地
同	村山喜作	枝幸郡枝幸村字エサシ百十七番地ノ二
常任監事	新保又四郎	白糠郡白糠村大字庶路村番外地
監事	古森治作	浦河郡荻伏村字荻伏二百五番地
同	市川春政	宗谷郡猿拂村字濱猿拂

一〇、定款 (省略)

(一) 昭和二十二年度鮭魚捕獲採卵成績表

場名	捕獲尾數 (尾)		計	使用親魚數 (尾)		計	採卵數 (粒)
	雌	雄		雌	雄		
本場鹽場	三,三五四	四,四〇〇	七,九五四	一,一七二	二,四〇四	四,〇四	1,000,000.0
天鹽	四,〇一〇	一,〇七三	五,〇八三	一,七三六	二,六九三	二,〇七七	1,000,000.0
頓志	三,三八八	五,〇〇〇	八,三八八	一,五九九	三,五八六	九,〇〇〇	1,000,000.0
德志	九二五	八七四	一,七九九	一	二六	九八〇	1,000,000.0
暑寒	一	四	五	一	一	二	1,000,000.0
本場管內計	一〇,七〇九	一四,八〇〇	二五,五〇九	五,五〇〇	一三,七七一	一七,〇七七	1,000,000.0
虹連	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
風連	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
當幌	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
伊津	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
伊茶	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
伊別	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
目梨	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
虹別支場管內計	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
北見	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
湧別	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
斜里	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
網走	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
藻琴	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0
興部	一,四三三	一,四三三	二,八六六	一,九一五	九一九	五八六	1,000,000.0

場名	捕獲尾數 (尾)		計	使用親魚數 (尾)		計	採卵數 (粒)
	雌	雄		雌	雄		
岩尾	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
北見支場管內計	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
十勝支場管內計	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
千歲	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
敷生	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
勇拂	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
染退	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
三石	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
元川	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
幌川	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
千歲支場管內計	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
渡島	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
知内	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
利部	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
厚澤	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
朱太	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
尻太	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0
渡島支場管內計	一〇二	一〇二	二〇四	六	六	一二	1,000,000.0

合 計	一、三三、〇七〇	一、〇七、二七七	三、四〇、三七七	六、八三、六七二	一、九三、五九六	九、四七、七七一
前年度合計	一、六八、四九五	二〇、〇四六	四、六六、九六一	六、八三、六七二	一、三三、四四一	一、六八、四九五

(二) 昭和二十二年魚鱒親魚捕獲採卵成績表 (櫻鱒、樺太鱒、紅鱒合計表)

場 名	捕 獲 尾 數 (尾)		計	使 用 親 魚 數 (尾)		採 卵 數 (粒)
	雌	雄		雌	雄	
天 志 鹽	一、六六八	一、一五三	二、八二〇	二七	七〇	三、九七、五〇〇
德 志 別	六、二九八	三、三八八	九、六八六	一五	四〇	三、五九、九〇〇
頓 寒 別	一、三二六	七三五	一、九七一	一三	六六	二、四一、〇〇〇
本 場 管 內 計	一、一九七	一、四一六	三、四一三	二七	九六	三、六七、五〇〇
虹 別	九、五九九	五、四三三	一、四、〇三二	一七	九六	一、六六、九〇〇
標 津 別	二、三二二	一、四三三	三、七五五	一三	一、一七	一、一七、七〇〇
日 梨 仁	九〇	八二九	一、七一九	六九	三〇	一、五九、七〇〇
伊 茶 帆	六二九	五九九	一、二二八	三	七	一、五九、七〇〇
當 帆 連	四、五三三	五、三六五	九、八九八	一	八	一、〇〇、〇〇〇
風 帆 連	三、八一	二九二	六七三	一	〇	一、〇〇、〇〇〇
虹 別 支 場 管 內 計	六〇七	四九九	一、一〇六	一	六	一、〇〇、〇〇〇
北 見 見	九、〇〇〇	八、九七九	一、八、九七九	一	八	一、〇〇、〇〇〇
斜 里 別	三、六〇〇	三、四六八	七、〇六八	一	七	一、〇〇、〇〇〇
湧 別	七、一四三	六、五三六	一三、六七九	一	六	一、〇〇、〇〇〇
網 走 別	三、一五六	五、二二六	八、三八二	一	三	一、〇〇、〇〇〇
藻 網 走 別	一〇	五五六	五七六	一	一	一、〇〇、〇〇〇

與 尾 部	前 年 度 合 計	最 近 五 年 平 均	合 計		採 卵 數 (粒)
			雌	雄	
與 尾 部	八、九三	二、七三	一、一七三	三、九七、五〇〇	一、〇〇、〇〇〇
岩 尾 內	一、三三〇	一、三三〇	二、六六〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
觀 內 計	三、五八	三、五八	七、一六	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
北 見 支 場 管 內 計	一、九、七三	一、九、七三	三、九四六	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
十 勝 支 場 管 內 計	一、八、九七	一、八、九七	三、七九四	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
十 勝 支 場 管 內 計	一、八、九七	一、八、九七	三、七九四	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
銅 路	一、八、九七	一、八、九七	三、七九四	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
千 歲	一、八、九七	一、八、九七	三、七九四	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
朱 太	一、八、九七	一、八、九七	三、七九四	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
尻 別	一、八、九七	一、八、九七	三、七九四	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
渡 島 支 場 管 內 計	一、八、九七	一、八、九七	三、七九四	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
合 計	五、五、七三	五、五、七三	一一、一四六	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
前 年 度 合 計	二、五、二四	二、五、二四	五、〇四八	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
最 近 五 年 平 均	二、七、三五	二、七、三五	五、五〇六	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇

(三) 昭和二十三年魚鱒親魚捕獲採卵成績表

場 名	捕 獲 尾 數 (尾)		計	使 用 親 魚 數 (尾)		採 卵 數 (粒)
	雌	雄		雌	雄	
天 志 鹽	五、四五六	五、四一一	一〇、八六七	二二	三九	一、〇〇、〇〇〇
德 志 別	一、三二七	一、三二二	二、六四九	一	一	一、〇〇、〇〇〇
頓 寒 別	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一	一	一、〇〇、〇〇〇
江 別	七、〇〇〇	七、〇〇〇	一四、〇〇〇	一	一	一、〇〇、〇〇〇

天 場	名	捕獲尾數 (尾)		使用親魚數 (尾)		探卵數 (粒)
		雌	雄	雌	雄	
天 鹽		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000

(四) 昭和二十三年度鱒親魚捕獲採卵成績表 (櫻鱒、樺太鱒、合計表)

合 計	前年度合計		本年合計		採卵數 (粒)
	雌	雄	雌	雄	
十勝支場管内計	1,400	1,100	1,100	1,100	100,000
千歲支場管内計	1,010	1,110	1,010	1,110	100,000
幌 浦	100	110	100	110	10,000
元 河	100	110	100	110	10,000
三 石	100	110	100	110	10,000
染 退	100	110	100	110	10,000
勇 拂	100	110	100	110	10,000
敷 生	100	110	100	110	10,000
千 歲	100	110	100	110	10,000
渡島支場管内計	5,226	6,187	5,226	6,187	500,000
朱 太	1,543	1,767	1,543	1,767	150,000
厚 部	1,543	1,767	1,543	1,767	150,000
利 別	1,543	1,767	1,543	1,767	150,000
知 内	1,543	1,767	1,543	1,767	150,000
渡島支場管内計	110,110	110,110	110,110	110,110	1,000,000
合 計	115,776	117,297	115,776	117,297	1,500,000

天 場	名	捕獲尾數 (尾)		使用親魚數 (尾)		採卵數 (粒)
		雌	雄	雌	雄	
天 鹽		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
岩 尼		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
興 部		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
藻 琴		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
網 走		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
斜 里		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
湧 別		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
北 見		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
虹別支場管内計		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
目 梨		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
薰 別		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
伊 仁		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
標 津		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
當 幌		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
風 連		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
虹 別		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
天鹽支場管内計		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000
暑 寒		2,668	2,181	1,001	3,698	200,000

- (一) 本場長 式辭
- (二) 歴代場長代表(養殖組合長) 祝辭
- (三) 山崎千歳町長祝辭
- (四) 渡部町會議長祝辭
- (五) 渡部町會議員祝辭
- (六) 石川北見支場長祝辭
- (七) 千歳支場長挨拶

式 辭

千歳支場は創立茲に六十周年を迎へ諸賢の御参列を得まして此の記念式を舉行すること洵に欣快とするところであります。

顧るに本道の開拓は鯉と鮭によりて爲されたと言つても過言ではなく隨て早くから保護政策をとられたのであります。が拓殖の進歩に伴い人口の増加と共に益々酷漁濫獲に陥入り貴重なる資源の涸渇を來すべきを憂い、明治二十一年北海道廳は英斷を以て此の地を相し米國に施す採つて本孵化場を創設し人工孵化事業を開始しました事は先人の卓見として敬服するところであります。

爾來屢々擴張を行ない本邦第一の孵化場たるばかりでなく世界有数の孵化場として幾多の功績を残し、永く斯界の王座を占めて居つたのであります。

昭和九年孵化事業の統一合理化を圖る關係から、札幌市外中之島に本場を移したのて名稱は事業場となり更に支場となつたのであります。が事業は依然として斯界に重きを爲して居つたのであります。此の長き歲月に亘り歴代の場員諸氏は何づれも山中に不便

と聞ひ子弟教育上の不利等を忍びつゝ之を天職として只管斯道に貢獻せられました事は洵に感謝に堪へません。

昭和十三年長くも斯道御獎勵の思召しによりまして當場に侍從御差遣の光榮に浴しました事は眞に感激の極みでありまして特に當場員は當時を想起して感奮一層成績の向上につとめて居る次第であります。

只だ近年本道の鮭鱒漁業は不振を來し更に競争による影響は遂に設備の充實を欠く等遺憾の點も尠からざるものあります。が漸次經濟界の安定と共に著々之が補充を行ひ、昔日の名譽を失墜せしめざる様う努力を致すと共に備へに各位の御鞭撻を望んで致みません。爰に所懐の一端を述べて式辭と致します。

昭和二十三年十月三十一日

北海道水産孵化場長 木村 鏡 郎

祝 辭

千歳孵化場が創立されてから實に六十年の歲月を閲し本日その記念の祝典に参列して祝辭を述べ得る機會を得まして欣幸に堪へないところであります。本道に現存する多數の孵化場は勿論廣く全國の孵化場を見渡しても千歳孵化場程古い歴史を有しており、然も事業は連綿として今日に續いておることは斯界に誇るに足るものであります。千歳孵化場設立の趣旨は言ふ迄もなく石狩地方の鮭漁業の資源涵養を主眼としたものであるが更に之に併せて孵化事業の經營改善と効率増進に必要な技術の向上を圖る爲に必要なる試験研究を行ふこと又は種卵の配付に依る移殖増産の實施を使命とし本道鮭鱒増殖の中心たらしめたものであります。以前千

歳鮮鱒中央孵化場の名稱を附した時代もあつたが此はその抱負の現はれてあります。

以上の事跡を現代の智識で批判して見ても一點の非難するところない卓越した構想であつて吾々は本孵化場創設を企畫した人とその精神をよく體して之を行政面と技術面から事業を推進した先人各位に心からの感謝と尊敬とを捧ぐることを忘れてはならないと思ふのであります。

未開の山間荆棘を拓き設備された千歳孵化場は少くとも設立以來前半年三十年間は場員は公私の生活に極めて不便不利を忍んだ時代であつて場員一體となつて一切の戸外の労働にまで勞を惜まなかつた、この結果は千歳孵化場は本邦鮭鱒孵化事業の總本山として勿論の事、よくの整備された場内環境に適應してその觀光的聲價を博し得たのであります。千歳孵化場の事業の効果として擧ぐるに足るものは多々あつて之を列擧する煩に堪へないが特に千歳孵化場の稚魚放流数の多寡は石狩鮭漁況に顯著なる影響を與へた事實、搾取採卵法に優る切開採卵法の發明、仔魚日射防止法の發明、漆塗孵化盆の發明等は本邦孵化事業發達に新規軸を開いたものとして有名であります。勿論之等の事實は本道の孵化事業の水準を高め、大正、昭和年間にかけて正に孵化事業の黄金時代を招致したことは世人の記憶に新なるものがありませう。然し終戦以來惹起した各方面の混亂は折角よく體型付けられた孵化事業にも波及して圓滑なる事業施行を阻害する幾多の支障を認めらるゝことは誠に概嘆に堪へないところであつて今にして之が對策を講じなければ本道鮭鱒漁業の興亡に關する重大時機に直面しなければならなくなることを考へます。

然らば之を救ふ道は如何かと言へば勿論その方策は多々あるが特に緊急と思はるゝことは孵化事業關係者と鮭鱒漁業者及孵化事業施行地區の人々との緊密なる連系の下に實質的に一體となつて此の苦難を切り抜けることとあります。孵化事業は官廳の事業であつて民間は關與しないと云ふ様な考へ方が官民何れにあつても之は拂折せねばならない考へ方であると思ひます。本日この記念日を契機としてこの孵化事業は孵化場の事業であると共に漁業者間に關係地方民各位の爲の事業であると云ふ公明なる認識を以て一致協力して光榮の千歳孵化場の歴史をして今後益々輝かしいものとする事を祈る次第であります。

昭和二十三年十月三十一日

歴代場長代表 半田 芳 男

祝 辭

我が國最初の魚類孵化の事業が六十年前も前に千歳の清流にこん／＼として注ぐ湧き水隨所の地、此處に初められたと云ふ歴史の跡を省みて幼少此の地に來たり千歳川の鮭の味覺に育つて自分も六十年感無量、一言祝辭を申し上げたいと存じます。

六十年前既に東洋一の鮭鱒孵化場として日本人のみならず全世界人類のために貢獻せられた此處千歳孵化場の功績は蓋し大なるものがあつて文化の進展と共に敗戦による漁場の喪失、狭小區域による濫獲など益々重要度を増しつゝあります。ことは今更申上ぐるまでもありません。

私共千歳の町は明治十三年戸長役場がおかれ明年を以つて七十

年を迎へるのではありませんが孵化場の発展の歴史は我が千歳町發展の歴史でありました。今日の千歳町は、その昔蝦夷地の重要な漁場として發展し漁獲多く蝦夷六大都市の一つとして著名な漁場のころを偲び消長の歴史を繰返しつつも運上屋が設けられ住民殖え孵化事業は進展の一途を辿り文化の進むにつれて内地人の來往によつて曲折を経ながらも近世に入り大東亞戰爭の真中にも年々減少する鮭鱒増殖のために努力せられ、今後は重要な漁場を失つて内陸河川及び沿岸漁業に至大の關係ある孵化事業を思ふとき、町の發展と密接不離の關係を結びながら歩み來つた過去と將來を偲び、愛稱「フカバ」の名と共に本場の發展を祈り一言祝辭を申上げる次第であります。

昭和二十三年十月三十一日

千歳町長 山崎友吉

祝 辭

私は或る人より千歳は先進文化の發祥地であると言ふ事を聞いて居ります。

文化四年近藤重藏氏蝦夷探險日記中に當時千歳川で鮭が百四拾萬尾も漁獲されたことが明記されて居り當時の鮭の如何に多かりしかが伺はれます。

私は平素千歳町の發展と鮭とは切りはなすことが出來ない大きな關連性を持つものであると共に千歳發展の基礎は實に鮭にあつたと申上ても過言ではなからうと思ふのであります。幸にして北海道廳が設置されるや千歳の鮭の歴史性につき着眼され明回二十一年米國より捕獲器具其他を取り入れ千歳川の清流に鮭鱒孵化場

此の孵化場で生れた鮭が、事業が益々隆へて全道各地に立派な施設が出來同じく此處を卒へられた幸内さん石川さん初め場員の皆様かそれ〴〵要職につかれ居りますの心をから御慶び申上るものであります。

人の社會は戰爭などありまして又變改もありませんが此の六十年を迎へた機會に千歳の孵化場の萬歳まで榮へます標鮭と共に祈り上げて祝辭と致します。

昭和二十三年十月三十一日

千歳町(北海道鮭鱒養殖水産組合出張所) 渡部 郁郎

祝 詞

曩に十勝支場の五十周年記念式があり今又茲に千歳支場の六十年の意義深い記念式典を進行せらるゝに當り誠に慶賀に堪えない次第であります。

六十年前に於て荆棘を開き鮭鱒人工孵化事業と地方殖産の基礎を成就せられた當時關係場員各位の艱苦勉勵に衷心より敬意を表すると共に將來益々盛に功益の大なる事を確信し愈々場員一致協力し本日此の感激を來る年毎に新にし一層奮勵努力以て先輩諸氏への報恩の一端と致されん事を望み、御祝の詞と致します。

昭和二十三年十月三十一日

北海道水産孵化場 北見支場長 石川 博

接 拶

本日茲に當場創立六十周年記念式典を擧ぐるに當りまして諸賢

が設立され以來六十年間歴代場長の孵化施設改善努力により現在東洋一の孵化場となつたのであります。

今や我國は樺太北千島の大漁田を失ひたる今日河川漁業の重大な事は言をまたない所でありませぬ。

最近沿岸漁業の濫獲により日本漁業將來性につき憂慮されて居る今日斯様な立派な孵化施設を有する千歳孵化場の使命は誠に大なるものがあると思ふのであります。

本日千歳孵化場創立六十周年記念式典に臨み所懐の一端を述べ祝辭に代へる仕度であります。

昭和二十三年十月三十一日

千歳町 渡部 榮藏

祝 辭

私は鮭と一緒に此の孵化場で生れたものです。姉はマス子、兄は圭一です。

私は大洋に行く郁郎であつたかも知りませぬ。山べと一緒に千歳川にのぼり四十年になりました。此度孵化場が六十年を迎へまして十代か十五代目かも知れない鮭の子孫と共に心から御祝申上げるものであります。

昔の藤村さん、森脇さん、内海さん、波多野さん、半田さん、菊地さん各小父さん方が、あるいは櫻を植へ水晶の様な湧水を穿ち又、シルコ會をねり場内の子供を育まれたこの僻地を好く鮭の爲の殿堂となされた御信念は、吾々の最も尊ぶ故郷であります。思いを昔にはせて感激にびたると共にその御勞苦を心から尊敬申上るものであります。

多數の御臨席と御町重なる祝辭を辱うしました事は當場として洵に光榮に存する處であります。

願ひまするに明治二十一年十一月此地に當場の基礎を置かれて以來六十年幾多貴重な試験研究による技術の改善と施設の擴充とを經て現在鮭卵五千萬粒鮭卵二百萬粒並淡水性鮭類五萬尾餘の飼育設備を有し北海道の鮭鱒孵化事業の中樞をなすに至つた事は幾多先人の擡まざる努力と其の尊き經驗の賜と衷心より敬意を表するものであります。

當場の創設は獨り石狩川の鮭鱒資源の維持のみならず道内孵化事業の指導試験研究による科學的基礎の確立並に種卵種苗の配付等増殖業を総合的に施行する意圖の下に設けられたもので現在本事業が北海道水産孵化場の下に統一せられ積極的に増殖事業を推進しつゝある事は當支場の六十年とは云へ實に水産増殖事業に一紀元を劃するものと信ずるのであります。

惟うに本事業の目的は沿岸並河川漁業の發展と其生産の安定にあり現在實施されつゝある事業の方法が此目的に添う唯一最善のものとの考へを捨て、総合的計畫の方に水産増殖事業の効果を期する秋茲に六十年の光輝ある歴史を有する當支場に職を奉じ此の盛典を擧ぐる光榮に浴した我々場員一同は其の實務の重大さを膽に銘じ本事業の最終目標の達成に一意専心を誓うものであります。今後共各位の御理解ある御援助と御指導御鞭撻を冀う次第であります。聊か蕪辭を述べて御挨拶と致します。

昭和二十三年十月三十一日

北海道水産孵化場 千歳支場長 佐藤 誠三 (昭和二三、一〇、三一、投)

昭和二十三年度採卵成績 優秀者表彰式舉行

本組合に於ては十勝事業所管内御影孵化室の新築竣工したるを好機とし之が收容状態を發表すると共に同事業所管内各採卵場に於ける昭和二十三年度採卵成績優秀者を表彰して將來技術の向上に資し併せて十勝川鮭鱒孵化事業の發展を圖ることに決定した。依て審査委員として水産孵化場十勝支場より幸内慎次郎、安田貞男、櫻庭弘文の三氏を本組合十勝事業所より平野昇、松田護、高野武の三氏を夫々委嘱し審査要領として(一)過去の實態(二)採卵成績(三)親魚捕獲成績(四)作業状態(五)天然の現象等につき各委員慎重審議の結果左記の如き成績を得たので昨年十月十一日帯廣市十勝商工獎勵會館一號に於て來賓十勝支廳長外朝野の名士並管下採卵場責任者等五十三名參列のもとに御影孵化室竣工報告をかね採卵成績優秀者表彰式を舉行した。

式典は定刻午前十一時三十分開式宣言後十勝事業所平野主任より御影孵化室設置の報告あり次で半田組合長の挨拶あり次で採卵成績優秀者に對し表彰狀並記念品の贈呈をなした次で十勝支廳長、御影村長及大津村長等の來賓祝辭あり次で被表彰者を代表して西三號採卵場、郷一雄氏の答辭ありて午後一時半閉式、引續き同會場に於て祝賀會を開き各

名士の餘興あつて午後三時半に極めて盛況裡に終了した。

成績

第一位	西三號採卵場	第七位	札内採卵場
第二位	東三號	第八位	芽室
第三位	音更	第九位	佐幌
第四位	御影	第十位	千代田
第五位	幕別	第十一位	愛國
第六位	千住		

鮭鱒研究並懇談會の開催

北海道水産孵化場企畫本組合後援による文化映畫「鮭の誕生」の製作が完了したるを好期とし本組合(北海道鮭鱒養殖水産組合)主催を以て鮭鱒研究並懇談會を開催した。其の概要は左の通りである。

記

一、日時 昭和二十四年三月三十一日

自午後一時 至同五時三十分

二、場所 札幌市丸井デパート四階

三、出席者 北海道水産孵化場長木村鎧郎氏、北海道水産試験場長大島幸吉氏、廳立小樽水産高等學校長飛鳥貞治氏外關係方面の名士約五十名

四、講演者並其の演題

1. 網ぬけ鮭の正體について
北海道水産試験場増殖科技官 川合豊太郎氏
2. 北海道の河川ではどんな割合で鮭鱒が捕られてゐるか
北海道水産孵化場場長 三原健夫氏
3. 密漁狀況と其の對策について
北海道水産孵化場場長 木村鎧郎氏

五、研究發表並懇談會の要旨

定刻半田組合長の挨拶ありて後講演會に移る、先づ水産試験場川合技官より「網ぬけ鮭の正體について」の題により其の研究になる建網を脱した鮭に關し調査統計寫眞等を展示して詳細の説明あり、次で水産孵化場三原技官より「北海道の河川ではどんな割合で鮭鱒が捕られてゐるか」と題し

本道沿岸に來游する鮭の數量は約三百萬尾であるが其の内沿岸で漁獲される數量は其の約80%とみて二百三、四十萬尾であり残る六十萬乃至八十萬尾は河川で捕獲されている、其の河川で捕獲される状況を調べて見ると全道四三六河川中約一三一河川中六六河川には鮭鱒孵化場があつて其處で約三十乃至四十萬尾が捕られる、この數量は北海道に洄游して來る鮭の

總數量の約十分の一に過ぎないこととなつて居る。

この來游の狀況は孵化場のある所に集中的に溯上して來る實情でありこの三、四十萬尾の捕獲親魚から二億万粒を孵化放流して鮭の資源維持を圖つて居る理である。

鮭の洄游研究の最終目標は孵化放流數の擴大によつて親魚の多獲を期するにあるから未熟卵では駄目であるから將來催熱試験により孵化成績の増大を圖らねばならぬ。

次に鱒は本道沿岸には六、七百萬尾來游するがその中の20%即ち百五十萬尾位が河川に溯上して來る。河川に溯上して來るものゝ内14%即ち約十四、五萬尾が捕獲されるが之も年々減少の傾向を示して來て居る。鱒は上流で熟卵となるので途中で捕獲せらるゝと未熟卵で孵化には適せぬから熟卵を得て孵化放流を増加することが重要な研究課題である」と説明せられ次で水産孵化場長木村鎧郎氏より「密漁狀況と其の對策について」の題下に

毎年本道沿岸に來游する鮭は約三百萬尾として其の一割即ち三十萬尾位が孵化場で捕獲採卵されるのであるがそれとは同數位が密漁されているので鮭鱒の資源維持上洵に憂慮に堪えぬ實情である之が取締については極力勵行して居るが豫算の關係で未だ充

分の實績を挙げ得ないことは遺憾である、それで民間の協力を必要とするのであるが沿岸の鮭鱒漁業者のみでは資源の維持が出来ない。

改正漁業法が實施されれば内水面漁場管理委員会で検討して行くことになるが一般の協力も切に要望する次第である」と述べらる。

以上研究發表ありて後半田組合長座席につき懇談會に移り、水産試験場長大島幸吉氏、倉上政幹氏、廳立小樽水産高等學校長飛島貫治氏、北海道水産新聞社長島谷榮二郎氏等より種々有益なる御意見の發表あり極めて盛會裡に午後五時閉會した。次で五階北海道ニュース映畫場に於て「鮭の誕生」外二巻の文化映畫を鑑賞して午後五時三十分散會した。

北海道水産孵化場十勝支場 釧路事業場増築落成式の舉行

川上郡弟子屈町大字弟子屈村字美留和にある北海道水産孵化場十勝支場釧路事業場においてはこの度二千五百万粒收容の孵化室増築工事が竣工したので去る二月十三日午後一時より同村美留和小學校において落成式が舉行されたが其の概況は次の通りである。

當日は寒氣殊の外厳しかつたが天氣極めて晴朗であつたため關係朝野の名士五十有餘名の多數が參列された。

先づ定刻係員閉式を宣し、次で木村水産孵化場長の告辭があり、次で田中地方技官より工事の経過報告ありて後建設請負者札幌市、岡田建設株式會社々長岡田進氏に對する感謝狀の授與があり、次で來賓祝辭として阿部北海道水産部長、土橋釧路國支廳長、林北海道鮭鱒保護協力會連合會長並半田北海道鮭鱒漁業協同組合長等の祝辭朗讀あり更に水産廳沿岸漁業課長其の他數氏よりの祝電披露ありて後閉式。式後直ちに同所において協議會長土橋武士氏主催にかゝる祝賀會にうつり、本道水産功勞者嵯峨久翁の當孵化場水源地探査の懷舊苦心談あり一同大に啓發せらるゝ處あり歡をつくして午後三時終了した。

(昭和二三、二、二〇)

本道開發功勞者表彰

昭和二十三年十一月道議會議場において舉行された本道開發八十年記念式典に當り半田組合長には道開發功勞者として他の數氏と共に北海道知事より表彰せらわ表彰狀並に記念品を授與された。

趣味

稿遺 孵化事業のところぐ

故 秋 味 三 平

昭和二十三年は脱兎の如くとび去り、今正に二十四年を迎へ三平も一年と一足づゝ近くなるにも係らず、野郎又々何かくだらぬ事を書き並べたね」と云ふ人々が澤山居られるのは御最もの話である、而し何は皆で置き之れだけは何分生れが生れだから人様の様に眞面目な事などは三平には思いも依らない。會津の山奥磐梯山の麓に持つて生れた野人、禮を矢するのだから目の玉の白黒して居る内は到底直る見込はない、そこで先般虎造大先生に伺つたら「馬鹿は死ななきや直らない」。

偕て漱石先生の滿韓ところぐをまねた譯でもないが、生來駄法螺を吹く事に於ては敢て人後に落ちぬ三平の事だから、脳味噌を出来るだけ絞つて何かところぐを書いて見る事にする。先づ此の世の中と云ふものは一六の賽の目の様なもので丁と張つたら半が出る、半に張つたら丁が出る、さて何が出るやら。

中の島のところぐ

中の島の水産孵化場も愈々陣容が整つて、名場長の下に

は一騎當千の若武者が全部出揃つた、それで先づ名實共に大盤石である。而しそんな事には何の係り合もないが、最近の中の崎孵化場が何故こんなに明朗になつたのか不思議な位だ、今迄の孵化場の空氣と云ふものは實に御話にならぬ變んな心持ちであつた、三平も永い間あの空氣の中にさまようて居つた事もあつたが、今から之れを考へれば自分ながらよくも動まつたものだと思つて居る。去つた後でも時たま要件があつて孵化場に行く時、あのコンクリートの圓柱より内に入るのが何んとなく氣が進まぬ事も一度や二度ではなかつた、要談中でも自分の前後には何か光かつて居る者がある様な氣持で早々として歸つたものである。それが最近になつてこんなに朗らかになるとは流石の三平も考へられなかつた、今更ながら感慨無量で、孵化場の爲め否本道孵化事業の爲め慶賀に堪へない、そこで三平も浮いた氣分になつて一つ一騎當千の方々を側面から一寸放逐して見る事とする。

先づ第一に三原事業課長である、氏は何んと云ふても中の島のピカイである事は一般の定評である。氏は少年時代

即ち札幌一中在學中あの一十有餘名の幹事長として號令叱咤したあの氣質が、今尙ほ仕事上に役立つて居る譯でもあるまいが、木村場長新任と同時に實に面白い話がある。當時世間の小雀達は場長は此度誰れを事業課長に採用するかと色々世評があつた、曰く誰曰く誰れと、人々の氏名が話題に上つて居つた、或る日三平は道廳の水産課に油を賣りに行つた時三三人の御役人様が机の隅の方にて、孵化場長は此度事業課長に誰れを据へるのだからとときりに慢談最中で、其時某技師はそれは調査の三原氏以外に今の處適任者は居らんよ、勿論三原氏さりと厳然として云ふた。其時他の連中は以外に驚いた許りでなく一齊に之れを否定した、其の理由は三原氏は水産試験場時代から今日に至るも調査研究の人で調査課長ならいざ知らず、事業課長は無理で、且つ又本人も今迄の仕事が無駄にするから非常な損失である云ふ意見が出た、今になつて見れば某技師のあの一言は全く當を得た意見で實に先見の明ありと云わざるを得ない、之れは別に三平は何も付け加へた譯でもなく、唯々當時の事を其まゝ書いたに過ぎない。

三原課長の下には昔から勇將の下に弱卒ないと云ふ諺の通り、若手としては最も未來を囑望されて居る萬能の士逸見氏が居り、更に本道鮭鱒孵化事業の老将菊地氏と、更に又樺太より遙々る海を越へて御來道金の田氏があるので、今後事業の指導監督の任に當られるものと思ふから、之れ

一年足らずで旋風に巻きこまれ丸で猿飛佐助さんの様に何れかにとび去つた、遂には主任の椅子も空席と迄なつた、或は庶務にせよ事業にせよ又は調査にせよ一ト廉の職員で之れ又次ぎと歩馬燈の如く退職者が續出した、當時は寄るとさざると、此度は誰れか、次ぎは誰れの番か、又は此度で何人目だと其の數日と共に増加し、三平なども當時十二三人目であつた様に記憶してをる。然るに其の優秀なる人々は必ず近き將來再び居る事と當時考へて居つたが、果せる哉ぼつと其の姿が現はれて來た事は之、實に當然と云わなければなるまい、偕て餘談は別として其の低氣壓の眞唯中に泰然自若として小林主任の椅子は絶対に動かさなかつた、而し其の半面に流石の同氏と雖も當時は相當人知れず苦しい事のあつた事は誰れ一人として知らぬ者はなかつた、氏は常に血の涙であつたにも係らず、常に表面には七分の笑に三分の愛嬌を以て少しも外面には見せなかつた事は流石の神様も御存じはなかつた。石の上にも三年と云ふが氏は少なくとも五年位は座て居つた様であつた。こんな譯だから一つの仕事も調査に調査を重ね二、三年は掛るとは口の悪い職員と言葉である。今や前述の如く場内は旋風も過ぎ去り明朗な孵化場となり小林課長の下には虹別支場長として、其名を唱はれた聖人君子の小野氏が女房役として居られるから、先づ申分のない天下無比の名コンビである。其の他仕拂には狩野氏が居る事は忘れてはなら

で本場の事業課としては力事万端OKと云ふ處であらふ。

偕て次ぎは企畫課であるが、何分課長の柴田氏が目下病氣療養中であるから流石の三平も此度だけは御遠慮申上る事とする。唯々次席に武田氏が居るが、同氏は誰れも知つて居る運り人間として圭角のとれた圓滿なる常識の所有者で實によく出來た人である。目下氏の仕事は企畫と云ふよりも、本場一般の仕事が多い様に見受けられる、又どんな仕事でも氏の手に餘る様な事はなく全部見事に處理して行く處などは氏にあらざれば絶対出來ぬ故に本場としてはなくてはならぬ人である。尙ほ企畫には資材の新庄氏が居る事を忘れてはならぬ、昨今の如き官廳と云わず、民間と云わず、事業を行ふには先づ第一に要するのは資材である。其の資材の入手如何に依り事業の成績を左右するのは明かな事實である、幸にして同氏は着々として其成績を擧げつゝあるのは氏の努力に依るものにて木村場長の先見宜敷を得たるものと云わざるを得ない、然るに貴重なる資材保管については構内の監視所の建物は裝飾の爲めに建てられたものであるまいから、宜しく活用すべきであらう、偕て企畫課も此位にして次ぎには庶務課にジャンプする。

小林課長は何んと云ふても押しも押されもせぬ庶務課長として一點の比を打つ處はない、今より約三、四年前に中の島水産孵化場に一大旋風が巻き起つた事があつた、あの時事業主任は次ぎから次ぎと永い人で一年餘り短かい人で

ぬ、氏も仕拂には生字引で相當に根もはり枝も榮へ万年支拂課長でもあるまい、何時かはウドンゲの花咲く時期もある事を三平は確信して居る。

調査課には山本課長を切め、課員としては石田氏あり、江口氏あり、西野氏あり、何れも毎日顯微鏡ととつ組んで一身を捧げ、孵化事業其他に對し調査研究に努力しつゝ、次ぎと貴重なる發表をされて居る事は實に感謝にたへない次第である。

尙ほ本場には今一つの有名なる名物がある、今や中の島は勿論札幌市内の水産關係團體及び官公署の水産人として知らぬ者は一人もあるまい、然らば其名物は何か？曰く構内の藤棚か、曰く廳舎のポストン蔦か、或は鯉でも金魚でもなく、之れは讀者に一任するより外にあるまい。

各支場のところと

偕て三平は再びこゝにトップ。ステツプ。ジャンプして各支場を一めぐりさせて頂きます、本場長は各支場長を適材適所に配置せられた事は今更改めて申述べる必要もあるまい、實に木村人事行政は申分がない、先づ渡島支場長の水戸部氏は樺太より更に樺太の各孵化場に永く勤務されて居つた關係上鮭鱒孵化事業については第一人者である。今日迄の經歷より見れば或は役不足であるかも知らんが、而し本道の南部に於ける孵化事業は悪口を申上ては濟みませ

んが、殆んど冬眠して居る様な状態だ、之れは場所柄不
得る事であるが、今や擇捉、國後等を失つた本道としては
此際南北を問はず徹底的に孵化事業に全力を注ぎ、且つ又
技術の向上を計り以て往時の全盛時代に再現するには今後
同氏に期待する處大なるべく、現在世評の如く渡島支場管
内の孵化場の一部には養魚池には雑草が茫々と密生して居
るが、畑や水田には草一本もないと云ふ悪口は一日も早く
解消したいものである、水戸部氏に一層の御奮闘を祈る。

天鹽支場の設置に對しては永年の計畫であつたが、現場
長に依て實現された事は本道鮭鱒漁業の爲め悦びにたへな
い、こゝに木村場長に對し敬意を表するものである、本道
の河川に於ては石狩川を初めとして十勝川、釧路川、其他
重なる、各河川には今日迄孵化事業には多大の成績を挙げ
つゝあるにも係らず、本道の三大河川の一なる天鹽川には
僅に上名寄に一孵化場を見るに過ぎず、其規模極めて小に
して到底御話にならぬ、然るに今回美深町に一大孵化場の
設置を見るに至りたるは將來天鹽國沿岸の鮭鱒漁業に貢献
するところ大なることに想到すれば、實に感謝に堪へない
従て此際新任の岸田支場長の一層の御努力を御願して止ま
ぬ次第である。

北見支場管内の孵化事業は流石石川支場長の統括下にあ
る關係上、所屬事業場は何れも着々完備しつゝあるは勿論
更に新設擴張を見つゝある事は同氏の計畫よろしきを得た
管内に於ける孵化事業を根本より之れを改革し、着々とし
て其成績を挙げ今日の一大盛況を見るに至りたるは實に感
謝にたへない處であるが、又この蔭には民間人にして此の
事業に死力を盡してくれた人があつた事を忘れてはならぬ
官廳の事業としては豫算其他の關係上どんな計畫があつた
としても實行不可能の場合のある事は當然で、其時に當り
之れを表より或は裏より應援せられ、今日幸内氏の成功を
見るに至りたるは全く十勝孵化場は官民協力の典型として
孵化事業界に誇るに足るものではないかと思ふ、ここに記
して幸内氏並に蔭の應援者に對し感謝の意を表すると共に
三平は各支場並に各事業場にも斯の如き事を望んで止まぬ
ものである。

千歳孵化場が昨年創立六十周年記念式を舉行された、此
の千歳は北海道否日本の代表的孵化場である事などは、物
知り顔でくどくど述べる必要はない、唯々三平の今此
處に云わんと欲する處は往時七、八千万粒より一億万粒の
孵化放流を行つたあの一大孵化場が、昨今其の十分の一に
も足らぬ孵化放流より出来なくなつた、其原因は何處にあ
るか、それには色々な關係もあろうし、又は六ヶ敷い理窟
もあろふが、それはそれとして何んとか一日も早く元の孵
化放流迄とは行かぬとしてもせめて其の半分位でも實現さ
せる事が急務ではなからうか、幸に今回新任の佐野支場長
に依て必ずや實現される事を確信するものである。氏は實

る結果に外ならず、尙ほ氏は孵化事業技術者ではあるが誰
れ云ふとなく氏は實に立派なる政治的手腕の持主で將來其
の點に相當重きをなして居る様に見られて居る。果して然
らば政界に馬を進めて中原の鹿を獲止める時期の到來する
事を三平は一日も早からん事を祈つて止まぬ。

此度虹別支場長に榮轉せられたる新妻氏は、實に今回錦
を飾つて赴任された譯で自他共に祝福せざるを得ない。同
氏は今を去る事約二十年前に虹別に在職されて居つたが、
當時の田中支場長赴任と共に虹別を去られ其後擇捉島民間
孵化場に在職せられて居つたが、苦節二十年遂に今回虹別
支場長の椅子を獲得されたのは全く氏の努力の結果にして
實に慶賀にたへないと同時に此錦を決してけがさぬ様にと
老婆心ながら申上る次第である。

本道の孵化場中十勝孵化場程、創設以來茨の途をふんで
來た孵化場はあるまい。正に七轉八起と云ふ處である、明
治三十二年即ち今を去る事五十餘年前十勝外四郡鮭鱒養殖
水産組合に依り帶廣市外のオベリベリに初めて出來た當時
三平等の先輩鴨川齊氏が技術者として千歳孵化場より赴任
されたのでよく知つて居るが、今日十勝が千歳孵化場を凌
駕する程の大孵化場になつた蔭には當局は勿論當該技術者
は血の見る様な苦心を續けて今日に至つたのである事は、
今更改めて申述る必要はない。官營に移管と共に此處にと
び込んだのが、現在の幸内支場長で氏は赴任と同時に十勝

に不言實行の人で他の人様の様に俗に云ふ官海游泳術にす
ぐれた人でもなく自分の信念で行く處などは到底他の人の
及ぶ處でなく、幸に部下としては星野氏の如き有材の士が
佐野氏の片腕となつて居らるゝ以上必ずや、近き將來に於
て千歳孵化場に一大變化を見る事を大に期待して止まぬも
のである。

孵化技術のところぐ

最近各方面に孵化技術が低下したと云ふ聲が聞こえる様
になつて來た事は水産人として甚だ遺憾の次第である、而
し之れは一概に御最もと聞き流す譯にも行かぬが多少なり
とも此の事業に携つた者には一考せざるを得ない事が多々
ある。今其の低下の原因とも云ふべき事柄をよく考へて見
れば、次ぎの様な事が其の要因となつて居るのではなから
うか？ 一、孵化事業に使用すべき資材入手の困難 一、
事業豫算の不足 一、技術者が事業即ち實務に遠ざかつた
事、其他色々あるだろふが重なる原因は以上の様に考へら
れる。今之れに對し少しく述べて當事者の參考に供したい
と思ふ。第一に資材入手が困難で事業上非常なる蹉跌を生
じた、其結果捕獲事業などに最も大なる支障を生じた事は
争はれぬ事實である。第二は豫算不足の關係事業上に支障
を生じた事も技術低下の一原因である、之れ等は或る時
期に依り必ずや解決すべきもので敢て非難する必要はない

と思はれる。第三の技術者が實務に遠ざかつた事が最も大きな原因ではなかるふか、最近の孵化場は支場は勿論事業場に於ても事務が非常に多く却て事業よりも事務の爲めに日々忙殺されて居る事は事實である。最も其爲めには専門の事務家も配置されて居るが、往時の様に場員全部が朝より孵化室内に終日卵子の取扱をして居ると云ふ事は絶対出来なく、殆んど全部の人が事務室に終始して居るから孵化室などに於て實務に携はるなどは昨今の孵化場としては無理な注文かも知らんが、實際最近の孵化場の状況を見るに殆んど人夫に依つて卵子の收容孵化放流に至る迄一切の實務を行ふ様な處もある様に見うけられる、勿論職員は絶対に孵化に關係せぬと云ふ譯ではないが各自が擔當事務の爲めに孵化室に迄手が延びぬのが實際の現状である。今一つは密漁とか或は之れに關聯する雑務の爲め事業を顧り見るひまもない處もある。尚ほ各支場は別としても孵化場技術者程今以て文化の恩恵に遠ざかつて、毎日世間の人様の目にも觸れず豆腐屋やお醫者様にも相當離れて山奥に十年二十年三十年と在職し其上、子弟の教育の爲めには妻子と別れ、高野山にでも立籠つて居る様な生活の人達は事業場には未だ〳〵居られる。之等に關しては三平は先きに「北海の水産」紙上に發表して、識者の一考を望んだ事があつたが其點に對しては誰れでも同情せざるを得ないが、而し余りに世間より遠ざかつた關係上、文化にをくれる許りでも

い。
以上、下らぬ事を書き並べ輕からぬ罪を造つた事は誠に申譯ないとおもつて居る。尚ほ千石編輯長より與へられた

録附

内海重左工門君の追憶集

内海重左工門君を悼む

半田芳男

本道鮭鱒孵化事業界の耆宿内海重左工門君の逝去は平素健康明朗な人であつただけに本當に死んだとは思はれない今にヒョッコリ何處からか例の笑顔で出て來るのではないかと云ふ感じがする。恐らく多くの知人が内海君の死去について私と同じくこんな氣持であるだろうと思ふ。

私が内海君を初めて知つたのは可なり古いことである。それは明治四十二年の十二月に鮭人工孵化の實習に千歳孵化場に出かけた時で丁度同君が其所に勤務しておつた際である。然も私共の宿舍は同君が未だ獨身で自炊しておつた官舎の壁一重の隣であつたので亂暴盛りの私共の騒ぎが烈

なく、自分の職務なる孵化事業にも益々をくれ、二十年三十年前の仕事を今以て繰り返し居る人もなないでもない。世の中が日に〳〵變ると共に孵化事業其のものも日に月に進歩して居ると云ふ事を忘れてはならない。本場の調査課其他よりは試験の成績は、次ぎ〳〵と發表されて居る。此の貴重なる調査報告等を其まゝ暖めて居つては何等價値がない。孵化技術者は單に毎年秋に卵子を收容し春になつて放流すればよいと云ふ考へ方は非常な時代をくれとなつた。苟くも鮭鱒増殖事業に係る以上は事業其ものに對し、沿岸漁業の状態、親魚回歸の状況、或は蕃殖の障害、他産業との關係、其他總ての孵化放流に對し、常に調査研究を要する事となつて來た譯であるから技術者諸君に於ても昔の様に孵化放流さへすれば我が事終れりと云ふ様な、戦時型の時代は過ぎ去つた。而し一方昨今の様に世の中がせちがらくなつて來た、生活の關係上、田畑と耕作する事も必要だるふ、又は養鶏や、鳥賊釣り、其他の仕事も必要ではあるが、之れ等は何れも限度があり、孵化室には足の踏む處なく、養魚池には雜草が茫々としてあり、其他技術者にとつては最も大切な生命とも云ふべき孵化器具亦然りとすれば、一寸誰れでも考へられる。若しこんな事があつたとせば敢て一考を望んで止まぬ次第である。最近には樺提、國後兩島の優秀なる技術者諸君も次ぎ〳〵と歸還せられた、今日今後の孵化事業の向上を見るのも決して遠くはあるま

る貴重なる紙面を超過せし事をもあわせて御詫する。

(二四、一、三〇記)

しかつたのを内海君にシツカリ聽かれて了ひあとで冷かされたり大目玉を喰つたりしたので同君に對する印象が特に深いのである。ところが私はその翌年學校を卒業して千歳孵化場に奉職することとなり今度は毎日顔を合はせる様になつたのだが之も何かの因縁であつたかも知れない。

私が千歳に勤めてから一年半を経て同君は西別孵化場長に榮轉し千歳を去つたが然し爾後本當に死ぬ迄孵化事業に關係してあるので公私交際を續けて來た。

同君は本道の孵化事業創始期の恩人藤村信吉氏、藤井顯氏、森脇幾茂氏(以上何れも故人)から随分と可愛がられ

その薰陶によつて本事業に終始することが出来たと云ふてもよい。それに同君は非常に器用な性質で孵化技術者としては最適任であつたし尙園藝、寫眞術は趣味を通り越して本職洗足しと云ふてよい位に堪能された。性質は明朗潤達奇智縦横でどんな場合でも同君が顔を出す席は忽ち爆笑と抱腹に賑ふのが普通であつた。それだけ皆から親しまれる存在であつた。

同君は享年六十五歳で逝去されたが性格が前述の如くで

内海重左工門君を憶ふ

菊也 覺助

養殖界の恩人内海重左工門君の長逝は洵に斯界に一沫の寂しさを覚える、その心血をそがれた虹別支場について考へて見たい。

本道鮭鱒孵化事業は明治二十一年千歳孵化場の創立によつて、愈々本格的となつたものであるが、同二十三年には根室西別川の上流水源地に西別孵化場が誕生して、更に根室國一圓の主要河川に範を垂れ、民間孵化事業が爲めに大いに氣を吐いた譯だが、何事も人が問題になる。鮭鱒漁業の將來は人工孵化に俟たねばならぬという、強い信念の持ち主、故小池仁郎氏が、西別原野を縦横に馳驅して孵化場

あるから若い人の間に伍して話がよく合つたし氣持ちも仲々に若いところあり映畫に野球に行くところとして可ならざるなしと云ふものがあつた。

終戦と共に我國水産業の受けた打撃はいろいろあるが鮭鱒漁業はその中で顯著なものである。之が対策は孵化事業の強化擴充による途が唯一のものである。従て斯うした重要時期に當て斯業の大先輩たる内海君を失つたことは誠に残念に堪へない。

た腕で、技術面に於ても幾多の改善をなして居るが、孵化場の使命として最も重要な採卵数の向上を計る事は、その成熟親魚を得る事の苦心に在るが、元來西別川の長い流域に於ては多くの密漁者によつて捕られる数は非常に多く勢ひ捕獲場は下流に於て之を求めぬ事になるが、此の事によつて又親魚の成熟は思うに任かせぬという點に逢著する。君は之れを二重留式に改正したが、結果は非常に良好で、爾來採卵数の激増を見、孵化場の設備も漸進して遂に千歳につぐ大孵化場として、内外に認められるに至つた事は、大なる功績であり斯界の歡びであつた。而して君はこれを以て満足せずに、根室國の鮭鱒漁獲高をして昔日の盛況に取り戻すべく、管内の漁業権百五十ヶ所に對し、一ヶ統百石を漁獲せしめる爲に、根室の河川から一億五千万粒を孵化放流せんとする一大計畫を樹て、大いに努力した當年の君の意氣や眞に壯とするものがあつた。又神祕の湖水摩周湖に對し虹鱒の移殖を斷行し、今日道内唯一の種卵供給地

故内海重左工門さんを追憶して

窪田 勝

となつて居る事も、君が在職中に於ける苦心の結晶といひ得る。昭和六年職を退く迄虹別に在ること二十年、其の後道廳、水産孵化場、鮭鱒養殖水産組合等に囑託として勤務され、本年八月没する迄一貫して孵化事業の爲に始終されたこと實に五十年の長きに亘つて居ることは、本邦に於ても全くその例を見ないものと思う。予君と相知る事四十餘年常に交を深くし、君の長逝に逢つて洵に言うべからざる寂寥を覚える、此間の思ひ出を綴れば實に限りないものがあるが別の機會にゆづる。君が常に夢寐にも脳裡に去來した虹別孵化場も今や電灯が耀き、場員も亦當時に數倍し、新構想の下に君が業蹟をして失墜せしめざらんことを念として努力して居られる。君が馬背に跨つて馳驅した茫漠たる虹別原野には、今や幾多の町村が出来鐵道が敷かれて居る。西別岳は昔ながらの偉容を以て君が功績をたゞえるように聳へて居る。君以て嘆すべきである。

(昭和二四、一二、一五)

私が内海さんに御世話になつたのは今から十五、六年前に道廳水産課に奉職した其の時からであつた。いま内海さ

んを追想して實に滑稽な場面であつたことを、一つ想ひ出したのである。

當時道廳の勤務時間は午前八時から午後四時迄であつた或る年の秋も過ぎた十二月初旬の午後四時半過ぎで戸外はもうすつかり暮れて退廳時間は既に定刻を三十分以上も経過して課員一同仕事は身につき腰を浮かせながら唯、某課長の退廳するのを待つばかりである。いま思へば悪習と言へようが、我々小職にとつては退廳時間が過ぎては課長連、係長連さんの退廳する迄はなか／＼退散することも差控へる如く無意味に時間を過すことが多く誠に哀れな存在であつた。其の日もそれから約二十分程経過してから漸く課長は退廳すべく書類を整理されて部屋を出られた。課員一同はやれ／＼と今日の勤めもどうにか終つたわいと言ふ安堵の顔色をして机上の整理に取りかゝつた、ところが長

秋味三平大老の想ひ出

水上武

秋味三平孵化居士、これが生前内海大老の口癖にしておられた戒名であつたが、自負されただけに鮭鱒孵化事業に貢献された業跡は洵に大きい。

現在第一歩を踏み出したばかりの小輩から見ると實に神様のような存在であり大老逝きて今更ながらその偉大なる功績に驚歎するものである。

身の内海さんが何を思つたか素早く席を立つて課長席にどつかりと着席して「君等御苦勞／＼、もう歸へり給へ」と放言して課員一同を爆笑させておつた。一度其の時である、既に退廳されたものとばかり思つてゐた某課長のつこりと部屋に戻られたのである。さあ大變長身の内海さんは猫に追はれた鼠の如く背を丸めて自席に戻る恰好は私が表現するよりも皆様によつて其の場面を御想像下さつた方がよくお解りかと存じ上げます。

以上誠に簡単に申し上げましたが内海さんが常に明朗な方であつた一例を申し上げて故内海さんの御冥福を蔭ながらお祈り申し上げます。

小輩が内海大老に正式初対面の榮に浴したのは昭和十五年の秋頃かと記憶するが、その頃の先輩は道廳に採用されたばかりの若輩であり亦最下級官吏でもあつて、その上現在のような強心臓でもなかつたので自然と部外に對する接觸は少く從つた。机に嚙りついて雑務ばかり仰せつかつてゐた頃であつた。

時折役所に顔を見せて誰彼の差別なく「ヤア、ヤア」と聲をかけ、お偉方連の肩を叩いて無駄口を吐いてゐる内海大老の姿を見て、到底端はものなど足元にも寄り付けぬ存在のように敬意を抱いてゐたものであつたが、ある時小輩の知人が來訪され是非中の島の鮭鱒孵化場を見學させて貰ひたいから案内して呉れないかと云ふ依頼があつた、そこで従來先輩一度も尋ねたことのない中の島孵化場に案内したのであるが、偶然にもその時場内を案内して下さつたのが日頃畏敬しておつたその内海大老であつた。これが正式對面の始まりである。それまで到底足元にも寄りつけぬと思つてゐた大老に初対面したところ、その打解けた態度と云い人の氣をそらさぬ話振りと云い、小輩の如き端はものに對しても「ヤアよく來て呉れたね、さあどうぞゆつくり見て行つて下さい」と丁寧な言葉を賜つた。そこで、小輩鳩豆式に目をパチクリ「ハア」と四十五度の敬禮でお答えしたのであつた。勿論ご案内は隅から隅まで微に入り細に入りと云ふ具合で、知人の喜びたるや亦一段と優つてゐたおかげで知人に對する小輩の面目も躍如たるものがあつた當時豫想もしなかつたこの偉大なる内海大老と職を共にした膝つき合せて閑談も出来るようになったのはこの時から六年後の昭和二十一年の秋であるから、案外世間は廣い様で狭いものである。

内海大老がこの世を去るまでたつた三年間ではあるが同

僚としての職場生活から得た想ひ出は数多いが、いざペンをとるとなると仲々書けぬものである。無理に書こうとすれば何となく固苦しいことばかりである。でも書かねば氣がすまぬ。そこでこんなことを書いたんではあの世の大老からお叱りを蒙るかも知れんが、故人の靈にお詫びをしつゝ裏面から覗いた想ひ出を書いて見よう。

内海老人は大變文藝的趣味が發達してゐた人のようによく映畫、演劇將亦當世流行の○○シヨウ等の觀覽席には屢々顔を見せてゐたようである。大老の言を借りるならば「拙者は映畫や演劇等はその内容に興味を抱いて見に行くんぢやない、常に光線の具合を研究するための見學である。今の若い者は○○シヨウなんかと云ふと目の色を變えて見に行くが拙者位になるとそんなものは何の魅力もない、唯こんなポーズの時はこんな光線を送ればよい、こんな場面にはどの角度から光線を反射させるべきか等と云ふ光線學の研究をしてゐるのである」と強調されてゐたが或はそうであつたかも知れん。

或日こんなことがあつた。元氣な大老が珍らしく二日程欠勤した翌日の晝過頃ぶらつと着流し姿で片手に藥壘を持ち他の一方には例の抹香鯨のステッキをついて事務所に現はれた。大老至極元氣がない。暑い夏の日盛りで腹をこわしたと云はれつゝ「今病院まで來たので一寸寄つて見た、こわくてやり切れないからこれから歸つて寝るんだ」と云

つてゐたので我々も大いにそうすべく進言したのであるが豈はからんや、直ぐ歸宅する筈の大老がどう道を間違えたのかそれから数分後には自宅とは正反對の薄野に在る松竹座の二階におさまつてゐたと云ふのであるから仲々以て文藝的方面の研究心が旺盛であつた。その日松竹座の催物は例のスエークスビヤもの、ヴェニス商人で有名な前進座の開演であつたが、翌日ある人から大老の巨大な着流し姿を認めたとの報告を受けて、啞然たるものがあつた。そして大老は翌日より出勤されたが前進座のゼの字も口に出さなかつた、處が或日四方山話の最中一寸したはづみにウツカリ口を迂らしてしまつた。そのときの大老頭をかきかき辯明大いに努めてゐたが、今なお當時の姿が愉快な想ひ出の一つとして頭の中に残つてゐる。

それから北大附屬植物園の木戸御免もまた有名なもので

畏友内海重左工門君の思出

千石吉雄

昭和二十四年七月二十五日、畏友内海重左工門君には溘焉として他界された、洵に愛惜の念に堪えない。

私が初めて君を知つたのは随分古く、昭和七年頃であつたかと憶ふ。その頃私は北海道廳の西裏にあつた元北海道

頃、内海さんは道廳水産課に勤務中であられたが従来から小池會長や菊地さんと親交のあられたと見え晝休みになるとお出でになつては菊地さんと歡談を交されて行かざるのが常であつた、こう云ふ譯で私も自然内海さんとお近づきになる機會を得たのであつた。

併しながら親しく君の聲咳に接して冗談を交はすことの出来る様になつたのはごく最近のことである。即ち昭和二十一年の秋私が北海道鮭鱒養殖水産組合にお世話になつてからのことである。初めて組合に出勤して見ると偶然にも舊知の内海さんがそこに微笑を漂はせて控へてお出でになられた、そして云はるゝには「僕も四十有餘年の官界生活を精算して先月からこの組合に奉職して居るよ」とのお挨拶であつた。それから私も爾來滿三年間組合長半田さんの下に君と机を列べ、朝夕親しく談笑しながら晩年の御奉公をさして頂く様になつたのであつた。

君が公人として本道の水産業就中鮭鱒孵化事業に貢献された功績は極めて顯著である、この點に關する追憶は非常に多いのであるが幸に君と格別の御交誼があり、君の業績を綴るに最もふさわしき水産孵化場の菊地さんが別項で詳しくお書き下さつたのでこの上私の冗筆を加へる必要がないと思ふ。そこで私は日常の瑣細な雑務にあらわれた君の姿を思ひ出してその二、三を記して見ることにする。

君は人も知らるゝ通り六尺に近い堂々たる風貌の持主で

ある。植物園に一憩を得んとする者は、誰でも大老の腰に掴まつてさえおれば木戸御免で入場が出来、歸りには温室を覗いて草花の一鉢もお土産に頂戴出来ると云ふものであつた。

春ともなればオフィスの机の上には植物園から拜借した可愛い小鉢の花で無聊を慰められたものであるが、今年からは大老と共に小鉢の花も眺められず一入寂しさが身に沁みる。

花園の好きな大老は今頃は天國とやらで蓮華の台に腰掛て花園を眺め楽しんでゐることやら、それとも三途の河とやらで天魚の人工孵化の指導でもやつてゐることであろうが。最後に大老の靈に一句を捧げ、その冥福を祈る。

今更に魚増すいさを忍ぶれば

逝きにし御靈惜みやもする

水産會に奉職中であつたがその時の會長さんは鮭鱒増殖事業に對する御造詣の深かつた代議士の故小池仁郎翁であり同僚中には千歳孵化場長として令名の高かゝつた菊地覺助さんがその年の春退官されて就職してゐられた。丁度その

あつた。大男總身に智恵が何んとやらの俚諺にもある通り大男の人は總じてその行動は鈍重のものであるが君は全くその正反對で、満身これ智恵であり其の行動は極めて慧敏であつた。だから人の意表に出る細かい事柄にもよく氣がつかれて後身を導かるゝのであつた。そして又何事にも器用であり、お世話すきの方であつた。一例を上げると、本務である事業部の仕事がどんなに忙がしい時でも同僚の机や椅子が小破すると直ぐハンマーを取り出して直して下さる、呼鈴が止まつたり電燈のヒューズが飛んだりするとペンチを持つて来て修理して下さる、窓硝子が曇つて来ると率先して掃いて下さると云ふ具合に何の屈托もなく氣輕に雑務を處理して下さつたので事務所は普段に綺麗であり和氣霽々たるものがあつた。

こう云ふ雑務は誰しも卑賤な仕事として等閑視し勝ちのものであり、ましてお役所上りの人には到底望めないものであるが君は全く異例の人でありどんな時でも卒先垂範、若い人々を指導されるのであつた。だから上下何れからも信頼せられ且つ敬愛されて居つたのであつた。もしそれ同僚、知人のお宅に冠婚葬祭などある場合は絶好のお世話人として頼まるゝのであつたが其の御蔭を蒙られた方も數知れぬ位であつたらうと思はるゝ。

昨年春水産業協同組合法の實施に伴ひ私達の北海道鮭鱒養殖水産組合も發展的に解散し同法に基き全道一團を地區

とする鮭鱒の業種別漁業協同組合を新に設立する運びとなつた、處が之が解散並創立に關する事務には夥だしい印刷物が要るのであるが經費節減の趣旨から之を一切自分達の手でガリ版刷りにしようと思ふことになりその原紙は同僚の窪田君と水上君とが書いて下さつた。乍併この原紙により會議の都度何千枚づゝガリ版に刷り上げることは容易の業ではない、之を誰れにお願ひしたものと案に思案にくれて居ると君は素早く一手に引き受けて下さつた。そして毎度ワイシャツ一枚、捻鉢巻、汗だくで刷り上げて下さつたのであつた、そのお蔭で悠々準備が出来たので水組の解散總會も協組の創立諸會議も順調に取り運ぶことが出来、會議係の私も大に面目を施した理であつた。

併し或る夏の午さがりに君は例の姿で汗にまみれ兩手を眞黒にしながら謄寫版と取り組んで居る眞盛中であつた、拓殖銀行にお勤めの御子息弘さんがひよつこ事務室に入つてこられ、この光景をちらりと一瞥されたことがあつた。その翌朝君が事務所に這入つて来るなり「千石君、昨日僕が歸宅するとね、うちの悴の奴『お父さんあなたは何時も事務所で云ふ仕事ばかりやつて居らるゝのですか』と問はれたには閉口したよ」と告げらるゝのであつた、が今にして當時を偲ぶと君の姿が又となく尊いものでありいくら頑丈な君であつたにせよ還歴を過ぎた老齡の君にあらんな過激な仕事をお願ひしたことは何としても無理であり、

編輯後記

○昨年業者の自由なる意志に基き新に設立された北海道鮭鱒漁業協同組合は曩に解散したる元北海道鮭鱒養殖水産組合の業務其の他權利義務一切を繼承したので今後本誌も新聞體の機關誌として之を續刊することとなりました、變りなき御支授と御眷顧を賜はりたい。

○季刊誌を標榜して復刊した本誌の發行が又々遅引に遅引を重ね事實年刊誌の形となつてしまつた、このため昨春本誌の發行をお約束に玉稿を頂いた渡邊教授、江口技官、其の他の寄稿者各位に對して全く面目次第もなき始末心から陳謝申し上げる。茲に發行遅引の辨解を申上ぐる意志は毛頭ありませんが編輯子も左記のつびきならぬ立場でありましたので斯様なことになつた課、何卒御了察をお願ひする。

○本誌の編輯は昨年四月に大體終了し、すぐ印刷所に廻付するばかりになつてゐたのでありましたが偶々水産業協同組合の實施に伴ひ本誌の所有者である鮭鱒養殖水産組合も發展的に解散し新に鮭鱒協同組合

忝けないやら申譯がないやら感慨無量である。君があんなにまでして心にかけて努力して下さつた協同組合も、其の後多少の経緯があつたが九月の十六日に目出度く農林大藏大臣より認可せられ將に本格的事業に著手せんとした際に君を喪くしたことは新聞體としても云ひ難い損失であり亦私達君の同僚に取つては衷心愛惜の念に堪えぬのである。

次に昨年早春のころであつた、私がこの鮭鱒彙報誌の原稿がなく編輯難で苦慮してゐた際であつた、君は「千石君、漱石の滿韓とくくにならつてこんなものを書いて見たいよ、君読んで見てよかつたなら採録してくれ、僕は文章が下手だから君自由に直してくれ給へ」と云はれて寄稿されたのが別項趣味欄掲載の隨筆水産孵化場とくくなのである。君が私の仕事を援助して下さる厚いお志ざしから寸暇を割いて書いて下さつた玉稿を私の怠慢から君の生前に上梓することが出来ず遂遺稿として掲載するに至つたことは返す／＼も申譯のないことである。

君と同席して識つた君の爲人や逸話を綴るとなると本誌の全頁を埋め盡しても尙足らぬと思はるゝが紙數の制限があるので他の機會に護ることとする。君なき後君の偉業を偲んで上下協力一致協同組合の聲價を失墜せぬ様奮闘を誓い、切に君が御靈の御冥福をお祈り申上げる。

を設立することになつた。そして編輯子がはからずも命により之が設立事務を擔當することとなり、四月下旬の設立發起人會より十一月初旬の設立登記の完了を見るまで終始寸暇もなかつた。かゝる際折悪しくも同僚の内海兄が急逝されたので編輯子に代り本誌編輯の事務を御願ひする餘人もないため日夜氣がかりであつたが今日に至つた次第事情御賢察を御願ひする。

○元北海道鮭鱒養殖水産組合の業績については世相の反映か兎角批判の對象となつたがこの組合の眞の足績については巻頭に掲載せる半田組合長の御挨拶によつて明かであるから御精讀を賜はりたい。

○北海道大學農學部元田博士の御惠技に係る論文「北海道湖沼案内」は今後三回に亘り連載するつもり、本文は近く某書店より單行本として發刊される首題の書籍の概論である由、特に各論の精讀を必要とせらるゝ方は單行本の御購讀を御勧め申し上げる。

○本誌の前號に掲載せる論文「鮭鱒の洞游経路について」は北海道水産試験場技官平野義見氏の起草に係るものを編輯子がどうした間違か水産孵化場の三原技官の起草として採録したのであるが發行當時三原技官の

御注意により早速平野技官に電話を以て陳謝をし御許しを得た次第であるが茲に更めて編輯子の粗忽の罪をおわび申し上げ責任を明にして重ねて今後の御愛顧を懇願申し上げる次第である。

(千石生)

昭和二十五年三月二十九日印刷
昭和二十五年三月三十一日發行

定價 金百圓

札幌市南十四條西一丁目
編輯兼 發行所 半田芳男
電話(3)二、八五〇番

札幌市南一條西五丁目
印刷所 小林憲司

札幌市南一條西五丁目
印刷所 小林印刷所
電話 六五七二番
電話(3)一六二三番

札幌市北二條西三丁目
發行所 北海道鮭鱒漁業協同組合
電話二、四五三番